

**「中央新幹線（東京都・名古屋市間）
環境影響評価書【静岡県】平成26年8月」
に基づく事後調査報告書
（準備工事着手前）**

2026年2月

東海旅客鉄道株式会社

目 次

第 1 章 事業の概要	1-1
1-1 対象事業の名称	1-1
1-2 事業者の氏名及び住所	1-1
1-3 対象事業の目的及び内容	1-1
1-4 本書の概要	1-1
1-5 工事の概要	1-6
第 2 章 事後調査を行った理由	2-1
第 3 章 事後調査の項目及び手法	3-1-1
3-1 事後調査項目	3-1-1
3-2 事後調査の手法	3-2-1
第 4 章 事後調査の結果	4-1-1
4-1 調査結果	4-1-1
第 5 章 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが 明らかにした場合の対応の方針	5-1
第 6 章 業務の委託先	6-1
参考： その他の調査の結果	参-1

まえがき

本書は、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【静岡県】平成26年8月」（以下、「評価書【静岡県】」という。）において実施するとした事後調査等のうち、準備工事に係る事後調査等の結果について、静岡県環境影響評価条例、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【静岡県】平成26年8月」に基づく事後調査計画書平成26年11月」（以下、「事後調査計画書」という。）及びこれに対する静岡県知事意見を踏まえて、工事着手前に実施したものを、事後調査報告書として取りまとめたものである。

第1章 事業の概要

1-1 対象事業の名称

中央新幹線品川・名古屋間※

※ 評価書においては、中央新幹線（東京都・名古屋市間）と記載していたものを、工事実施計画の認可申請に合わせて変更したものである。

1-2 事業者の氏名及び住所

名	称	東海旅客鉄道株式会社
代 表 者 の 氏 名		代表取締役社長 丹羽 俊介
主たる事務所の所在地		愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番4号

1-3 対象事業の目的及び内容

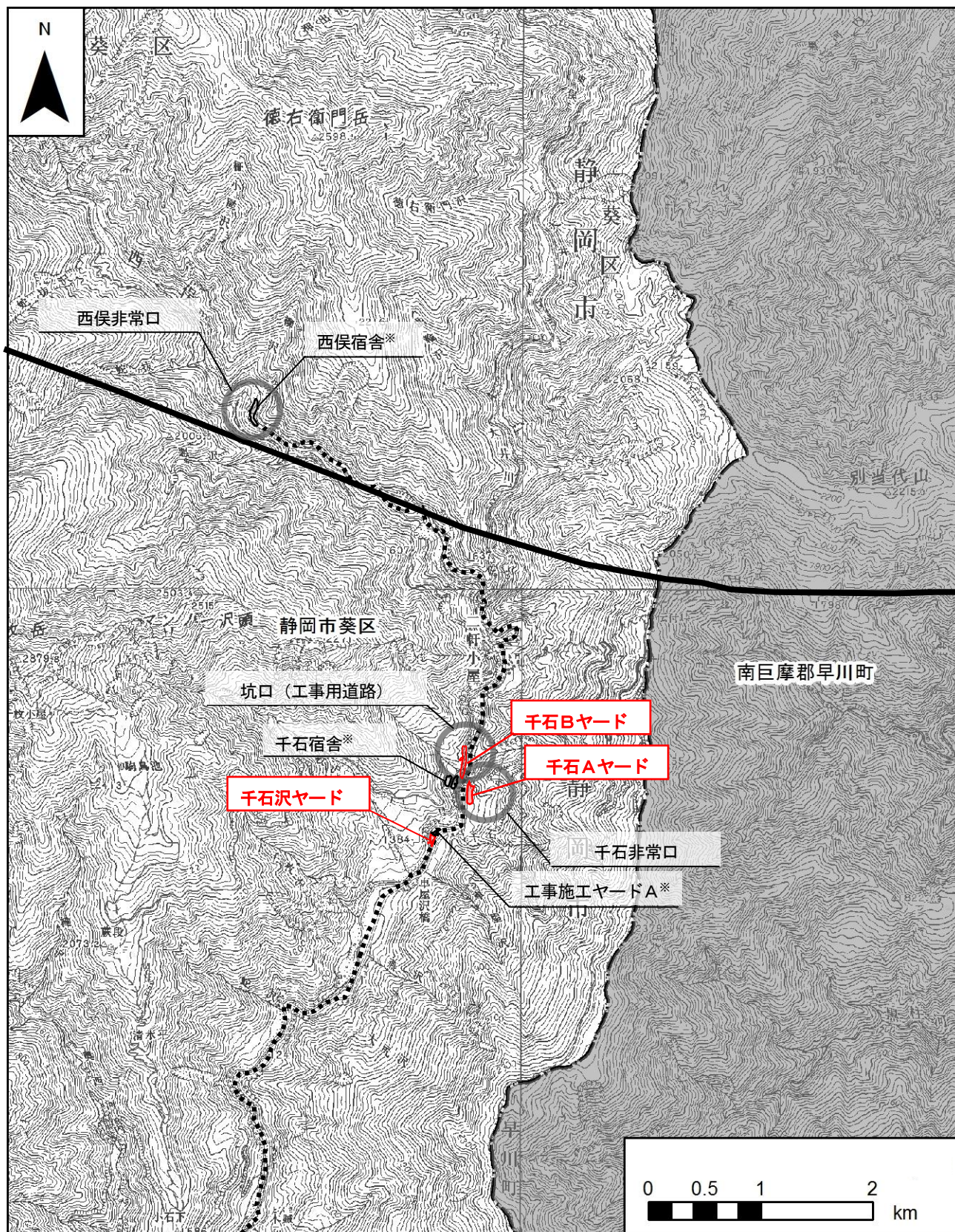
評価書の「第3章 対象事業の目的及び内容」に記載のとおりである。

1-4 本書の概要

本書は、静岡県内の準備工事のうち、千石Aヤード、千石Bヤード、千石沢ヤードの各ヤードにおける作業を対象としている。

工事に関する内容の一部については、「「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【静岡県】平成26年8月」に基づく事後調査報告書（宿舎等工事着手前）平成30年9月」（以下、「事後調査報告書（宿舎等工事着手前）」という。）、「「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【静岡県】平成26年8月」に基づく事後調査報告書（工事施工ヤードA造成作業等（宿舎等工事関連）着手前）平成31年3月」（以下、「事後調査報告書（工事施工ヤードA（宿舎等）着手前）」という。）において、既に報告を行っている。

各ヤードの位置を図1-1、各ヤードの工事範囲、配置を図1-2に示す。



凡例

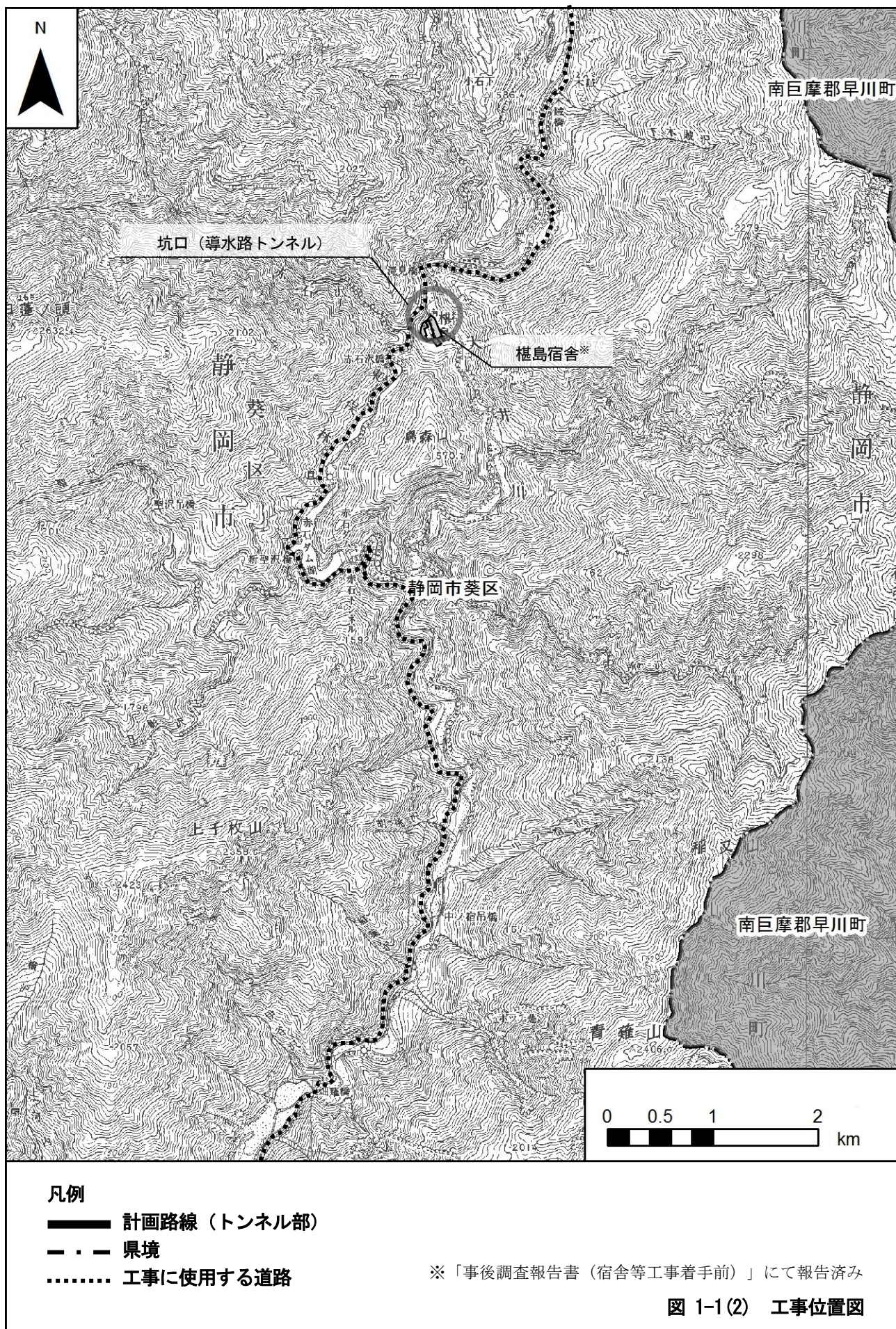
—— 計画路線（トンネル部） ■ 本書の対象ヤード

- - - 県境

..... 工事に使用する道路

※「事後調査報告書（宿舎等工事着手前）」、「事後調査報告書（工事施工ヤードA（宿舎等）着手前）」にて報告済み

図 1-1(1) 工事位置図



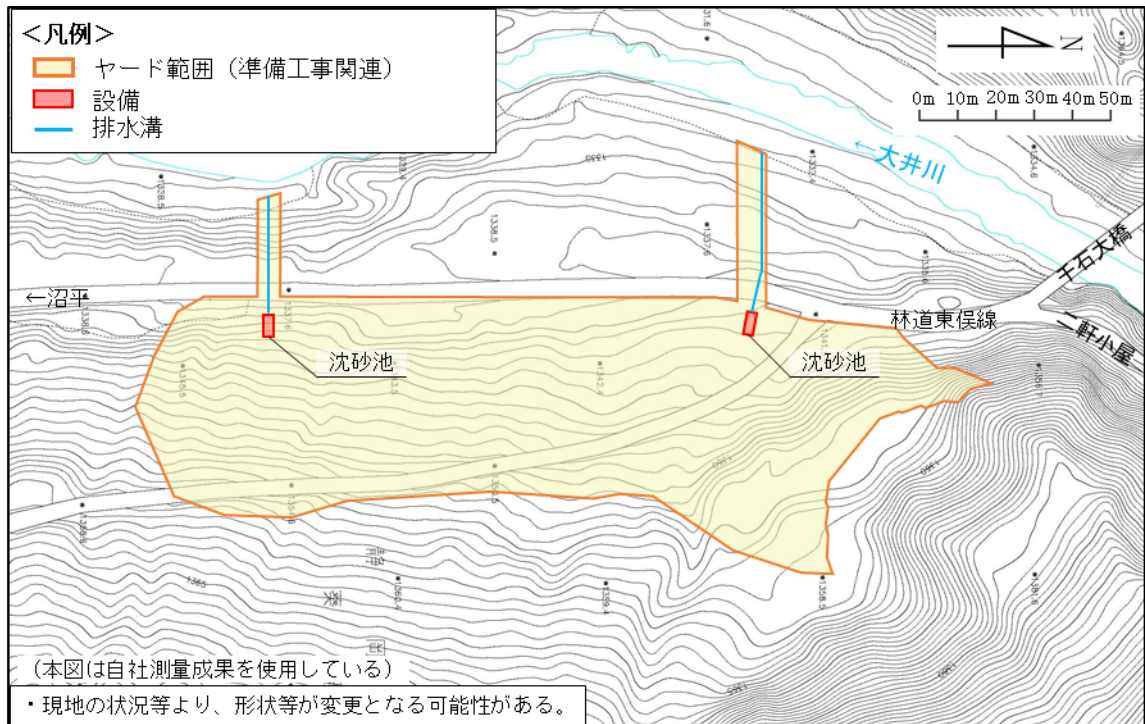


図 1-2(1) ヤード範囲、配置（千石Aヤード）

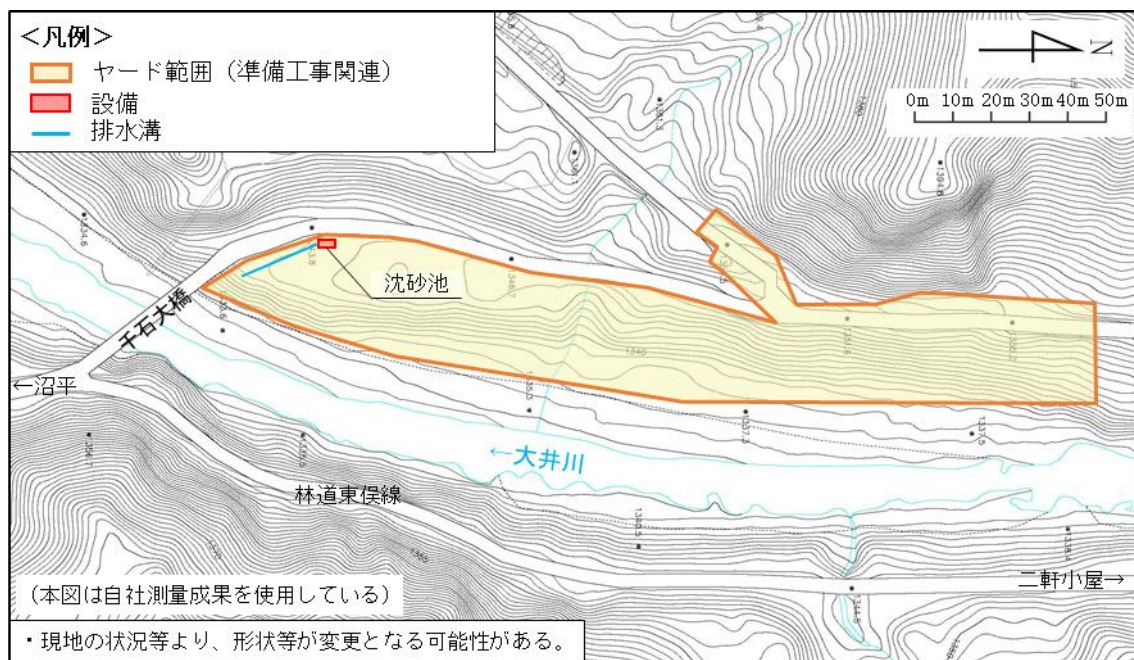


図 1-2(2) ヤード範囲、配置（千石Bヤード）

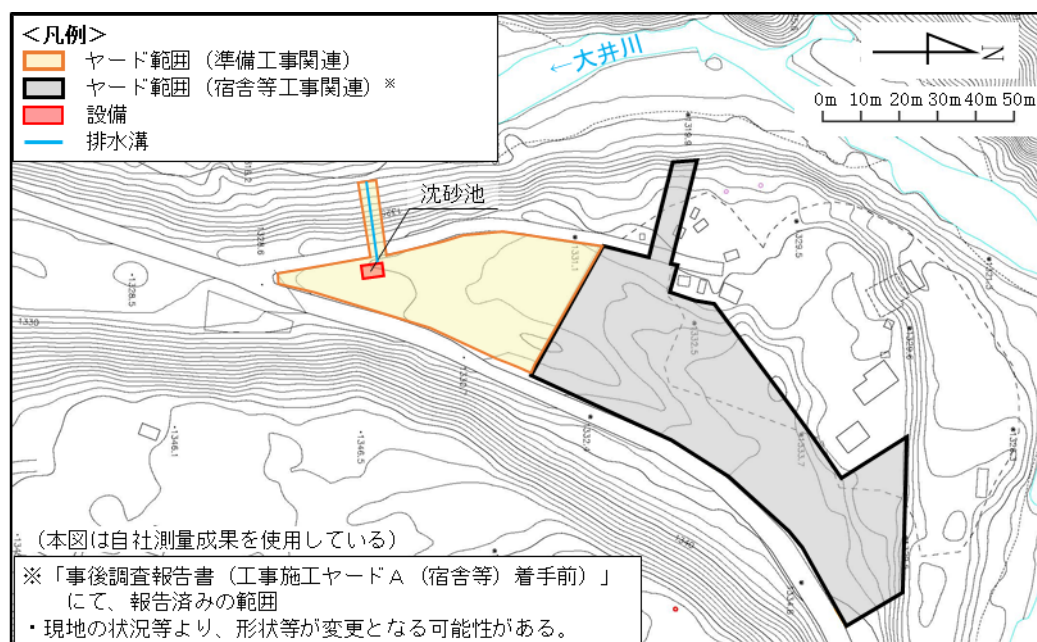


図 1-2(3) ヤード範囲、配置（千石沢ヤード）

1-5 工事の概要

- ・各ヤードは、図 1-3 に示すとおり、重機等を使用して伐採を行う。
- ・各ヤードでは、図 1-4 に示すとおり、重機等を使用して造成、整地を行う。
- ・各ヤードの計画地は、人工林等を選定している。
- ・千石Aヤードについては、静岡市長意見※を踏まえ、ヤード周辺の大井川沿いに生育するウラジロモミ天然林の改変を回避する計画とした。
- ・なお、準備工事の工事工程、工事用車両の運行計画については、「静岡県内中央新幹線建設工事に伴う準備工事における環境保全について」（2026 年 2 月）の「2-4 工事工程」、「2-5 工事用車両の運行」に記載している。

※ 「「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【静岡県】平成 26 年 8 月」に基づく事後調査報告書（工事施工ヤードA造成作業等（宿舍等工事関連）着手前）に関する意見書」（平成 31 年 4 月）より、「施工予定地周辺は、過去に伐採された箇所ではあるものの、その後の植林の記録がなく、潜在自然植生であるウラジロモミの天然林が広がっている。また、林床には希少な草本類が数多く生育しており、自然度は非常に高い場所といえる。このため、ヤードの造成にあたっては、改変範囲を最小限にとどめる必要があると考える。」と意見をいただいている。



図 1-3 伐採（写真は静岡県内の宿舍等工事での事例）



図 1-4(1) 造成・整地（写真は静岡県内の宿舎等工事での事例）

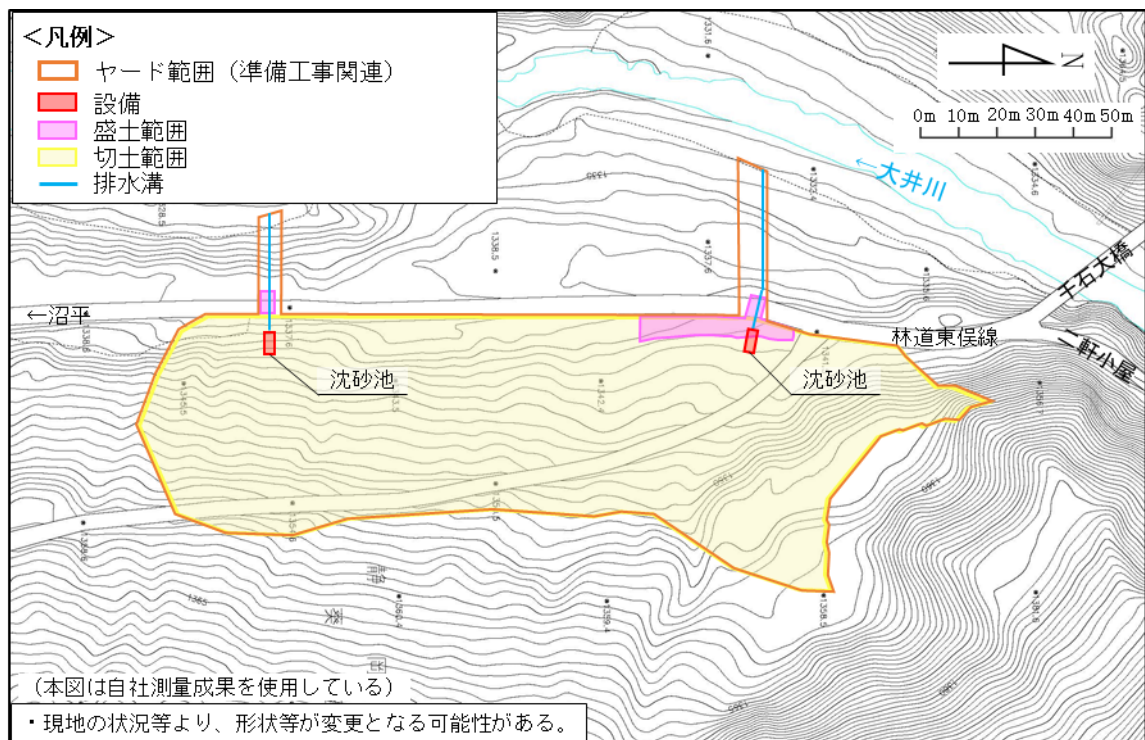


図 1-4(2) 造成・整地（千石Aヤード）

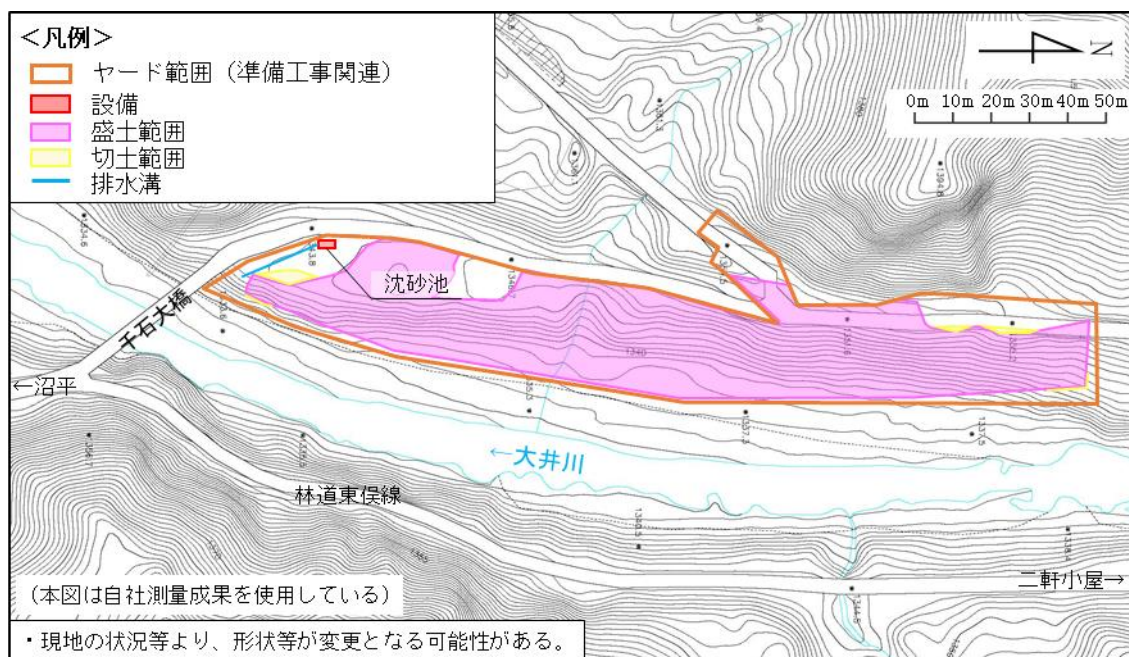


図 1-4(3) 造成・整地（千石Bヤード）

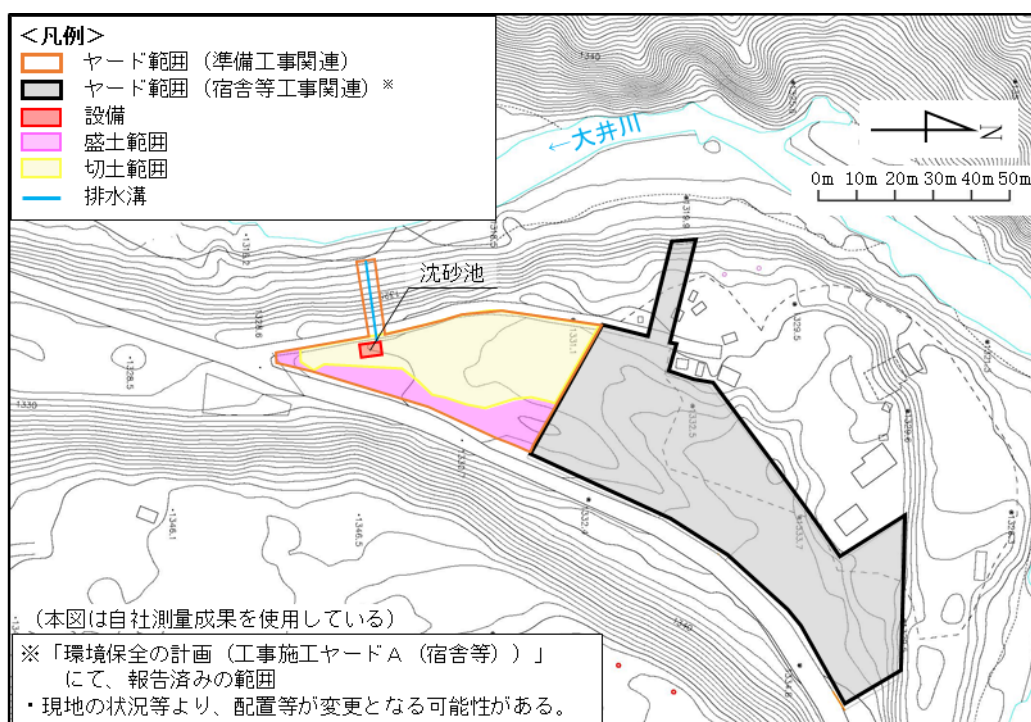


図 1-4(4) 造成・整地（千石沢ヤード）

第2章 事後調査を行った理由

事後調査は、事後調査計画書に基づいて実施した。事後調査計画書では、評価書【静岡県】において、不確実性があると考えられた予測及び環境保全措置の効果を検証するため、対象事業にかかわる工事の着手前、工事中、完了後において、環境要素の4項目（水環境、動物、植物、生態系）の事後調査を実施することとしている。

準備工事に関しては、植物について環境保全措置（移植・播種）を実施したが、その効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく主務省令（平成10年6月12日運輸省令第35号）（以下「主務省令」という。）の定めにより、事後調査を実施することとした。

事後調査を行うこととした項目について、その実施理由を表2-1に示す。

表 2-1 事後調査の実施理由

環境要素の区分		事後調査を行うこととした理由
植物	重要な種及び群落	重要な種の移植、播種は、環境保全措置の効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。

第3章 事後調査の項目及び手法

準備工事に関して、工事着手前において、表 3-1-1 に示す事後調査を実施する。

3-1 事後調査項目

事後調査項目を表 3-1-1 に示す。

表 3-1-1 事後調査項目

環境要素の区分		調査項目	調査時期
植物	重要な種及び群落	移植・播種した植物の生育状況	工事着手前

3-2 事後調査の手法

3-2-1 重要な種及び群落：移植・播種した植物の生育状況

(1) 調査項目

調査項目は、工事前に移植・播種した植物の生育状況とする。

準備工事に関して対象となる植物については、ヒロハノヘビノボラズ（アカジクヘビノボラズを含む。）、ヤマシャクヤク、チョウセンナニワズ、ミヤマスミレ、ミヤマニガウリ、トダイアカバナ、タチキランソウ、レンブクソウ、ヒトツバテンナンショウ、ギンラン、イチヨウラン、ホザキイチヨウラン、クロクモキリソウである。なお、植物に係る環境保全措置の内容等については、「静岡県内中央新幹線建設工事に伴う準備工事における環境保全について（2026年2月）」の「3-7 重要な種の移植・播種」に記載している。

(2) 調査地点

現地調査地点は、準備工事に関して、移植・播種を実施した地点であり、調査対象種を表 3-2-1 に示す。

表 3-2-1 移植・播種を実施した植物

種名	科名	移植・播種前の 生育地	移植・播種の 実施箇所	移植・播種の 実施時期
ヒロハノヘビノボラズ (アカジクヘビノボラズを含む) ※1	メギ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2018 年 10 月 30 日 (移植)
ヤマシャクヤク ※2	ボタン科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2025 年 12 月 1 日、2 日 (移植・播種 ※4)
チョウセンナニワズ ※1	ジンチョウゲ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2017 年 9 月 26 日 (移植)
ミヤマスミレ ※2	スミレ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2025 年 12 月 3 日 (移植・播種 ※4)
ミヤマニガウリ ※2	ウリ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2025 年 11 月 5 日 (播種 ※4) 2025 年 12 月 1 日 (播種 ※4)
トダイアカバナ ※1 ※2	アカバナ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2018 年 11 月 1 日 (移植・播種) 2025 年 11 月 5 日 (移植・播種 ※4)
タチキランソウ ※2	シソ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2025 年 11 月 5 日 (移植・播種 ※4)
ヒトツバテンナンショウ ※1 ※2	サトイモ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2017 年 10 月 30 日 (移植・播種) 2025 年 11 月 7 日 (移植・播種 ※4)
ギンラン ※2	ラン科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2025 年 12 月 2 日 (移植・播種 ※4)
イチヨウラン ※2	ラン科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2025 年 11 月 6 日 (移植・播種 ※4)
ホザキイチヨウラン ※2 ※3	ラン科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2017 年 9 月 28 日 (移植・播種 ※4) 2025 年 11 月 6 日 (移植・播種 ※4) 2025 年 12 月 1 日 (移植・播種 ※4)
クロクモキリソウ ※1 ※2 ※3	ラン科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2018 年 11 月 2 日 (移植・播種 ※4) 2025 年 12 月 1 日 (移植・播種 ※4)

※1 評価書等において保全対象種とした植物ではないが、「静岡県自然環境保全条例」(昭和 48 年、静岡県条例第 9 号)に関連して静岡県と協議した結果、ヒロハノヘビノボラズ(アカジクヘビノボラズを含む。)及びチョウセンナニワズ、ヒトツバテンナンショウは、「まもりたい静岡県の野生生物-県版レッドデータブック-植物編 2004」(平成 16 年、静岡県)において絶滅危惧種に指定されていたことから、トダイアカバナ、クロクモキリソウは、「静岡県版レッドリスト 2017」(平成 29 年、静岡県)において新たに絶滅危惧種に指定されたことから、移植・播種を実施した。

※2 「静岡県自然環境保全条例」(昭和 48 年、静岡県条例第 9 号)に基づく自然環境保全協定の締結に向けた希少野生動植物調査において確認された種であり、「まもりたい静岡県の野生生物 2020-静岡県レッドデータブック-植物・菌類編」の掲載種であることから、移植・播種を実施した。

※3 ホザキイチヨウラン及びクロクモキリソウの移植先の検討を行うにあたって、専門家の意見を踏まえ、共生する菌根菌の同定を行った。また、周辺の樹木伐採等による間接的な影響を受けやすい種とされていることから、改変区域の周辺に生育する個体についても、一部移植する計画とした。

※4 専門家の意見を踏まえて、自生株周辺の表土も合わせて移植した(埋土種子の播種)

※5 レンブクソウについては、今後、現地で生育状況を確認し、移植・播種を実施する。

(3) 調査時期及び頻度

これまでに実施した現地調査の期間を表 3-2-2 に示す。なお、移植・播種後の生育状況調査は、移植・播種後 1 ヶ月以内及び移植・播種後 1 年間は発芽期（播種した場合のみ）、開花期及び結実期にそれぞれ 1 回、それ以降は移植・播種後 3 年まで結実期（結実が地上から確認できないものは開花期）に年 1 回実施することを基本として、専門家等への報告、確認を踏まえて調査期間を設定することとする。また、調査結果によって、専門家等への報告、確認を踏まえ、調査期間の見直しを検討する。なお、移植・播種実施時の専門家等による技術的助言の内容については、「静岡県内中央新幹線建設工事に伴う準備工事における環境保全について（2026 年 2 月）」の「3-8 専門家等の技術的助言」に記載している。

表 3-2-2(1) 現地調査期間（植物の生育状況）

種名	調査日
ヒロハノヘビノボラズ (アカジクヘビノボラズを含む)	(2018 年移植個体) ○移植後 1 ヶ月以内 ・ 2018 年 11 月 14 日、11 月 28 日 ○移植後 1 年目 ・ 2019 年 5 月 10 日（開花期） ・ 2019 年 8 月 6 日（結実期） ○移植後 2 年目 ・ 2020 年 8 月 28 日（結実期） ○移植後 3 年目 ・ 2021 年 8 月 4 日（結実期）
ヤマシャクヤク	(2025 年移植個体、播種箇所) ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・ 2025 年 12 月 9 日、12 月 18 日
チョウセンナニワズ	(2017 年移植個体) ○移植後 1 ヶ月以内 ・ 2017 年 10 月 11 日、10 月 30 日 ○移植後 1 年目 ・ 2018 年 5 月 22 日（開花期） ・ 2018 年 7 月 17 日（結実期） ○移植後 2 年目 ・ 2019 年 7 月 17 日（結実期） ○移植後 3 年目 ・ 2020 年 8 月 25 日（結実期）
ミヤマスマレ	(2025 年移植個体、播種箇所) ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・ 2025 年 12 月 9 日、12 月 18 日
ミヤマニガウリ	(2025 年播種箇所) ○播種後 1 ヶ月以内 ・ 2025 年 11 月 20 日、11 月 27 日、12 月 9 日、12 月 18 日

表 3-2-2(2) 現地調査期間（植物の生育状況）

種名	調査日
トダイアカバナ	（2018 年移植個体、播種箇所） ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・2018 年 11 月 13 日、11 月 27 日 ○移植後・播種後 1 年目 ・2019 年 6 月 11 日（発芽期） ・2019 年 9 月 25 日（開花期） ・2019 年 11 月 22 日（結実期） ○移植後・播種後 2 年目 ・2020 年 10 月 15 日（結実期） ○移植後・播種後 3 年目 ・2021 年 10 月 15 日（結実期） （2025 年移植個体、播種箇所） ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・2025 年 11 月 20 日、11 月 26 日
タチキランソウ	（2025 年移植個体、播種箇所） ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・2025 年 11 月 20 日、11 月 26 日
ヒトツバテンナンショウ	（2017 年移植個体、播種箇所） ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・2017 年 11 月 9 日、11 月 21 日 ○移植後・播種後 1 年目 ・2018 年 5 月 10 日（発芽期） ・2018 年 5 月 23 日（開花期） ・2018 年 8 月 7 日（結実期） ○移植後・播種後 2 年目 ・2019 年 8 月 6 日（結実期） ○移植後・播種後 3 年目 ・2020 年 8 月 28 日（結実期） （2025 年移植個体、播種箇所） ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・2025 年 11 月 20 日、11 月 26 日
ギンラン	（2025 年移植個体、播種箇所） ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・2025 年 12 月 9 日、12 月 18 日
イチヨウラン	（2025 年移植個体、播種箇所） ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・2025 年 11 月 21 日、11 月 27 日

表 3-2-2(3) 現地調査期間（植物の生育状況）

種名	調査日
ホザキイチヨウラン	（2017 年移植個体、播種箇所） ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・ 2017 年 10 月 11 日、10 月 12 日、10 月 27 日、10 月 28 日 ○移植・播種後 1 年目 ・ 2018 年 5 月 22 日（発芽期） ・ 2018 年 7 月 17 日、7 月 18 日（開花期） ・ 2018 年 9 月 19 日（結実期） ○移植・播種後 2 年目 ・ 2019 年 9 月 4 日（結実期） ○移植・播種後 3 年目 ・ 2020 年 9 月 11 日（結実期） （2025 年移植個体、播種箇所） ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・ 2025 年 11 月 21 日、11 月 27 日、12 月 9 日、12 月 18 日
クロクモキリソウ	（2018 年移植個体、播種箇所） ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・ 2018 年 11 月 13 日、11 月 27 日 ○移植後・播種後 1 年目 ・ 2019 年 5 月 9 日（発芽期） ・ 2019 年 7 月 17 日（開花期） ・ 2019 年 11 月 22 日（結実期） ○移植後・播種後 2 年目 ・ 2020 年 10 月 15 日（結実期） ○移植後・播種後 3 年目 ・ 2021 年 10 月 13 日（結実期） （2025 年移植個体、播種箇所） ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・ 2025 年 12 月 9 日、12 月 18 日

(4) 調査手法

現地調査（任意観察）による確認とし、専門家等への報告、確認を踏まえながら実施した。

第4章 事後調査の結果

準備工事に係る工事着手前の事後調査として、移植・播種を実施した植物の生育状況に関して調査を実施した。

4-1 調査結果

4-1-1 ヒロハノヘビノボラズ（アカジクヘビノボラズを含む。）

ヒロハノヘビノボラズ（アカジクヘビノボラズを含む）の生育状況調査の結果を図 4-1 に示す。

（2018 年移植個体）

3 個体、移植を実施した。

移植後 1 ヶ月以内の確認（2018 年 11 月 14 日、2018 年 11 月 28 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植箇所の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

移植後 1 年目の開花期の確認（2019 年 5 月 10 日）では、3 個体の生育を確認したが、開花は確認されなかった。結実期の確認（2019 年 8 月 6 日）では、3 個体の生育を確認したが、結実は確認されなかった。

移植後 2 年目の結実期の確認（2020 年 8 月 28 日）では、3 個体の生育を確認したが、結実は確認されなかった。

移植後 3 年目の結実期の確認（2021 年 8 月 4 日）では、3 個体の生育を確認したが、結実は確認されなかった。

移植後 3 年間の調査において、個体の生育が確認できたことから、専門家への報告・確認を踏まえて、調査は終了した。

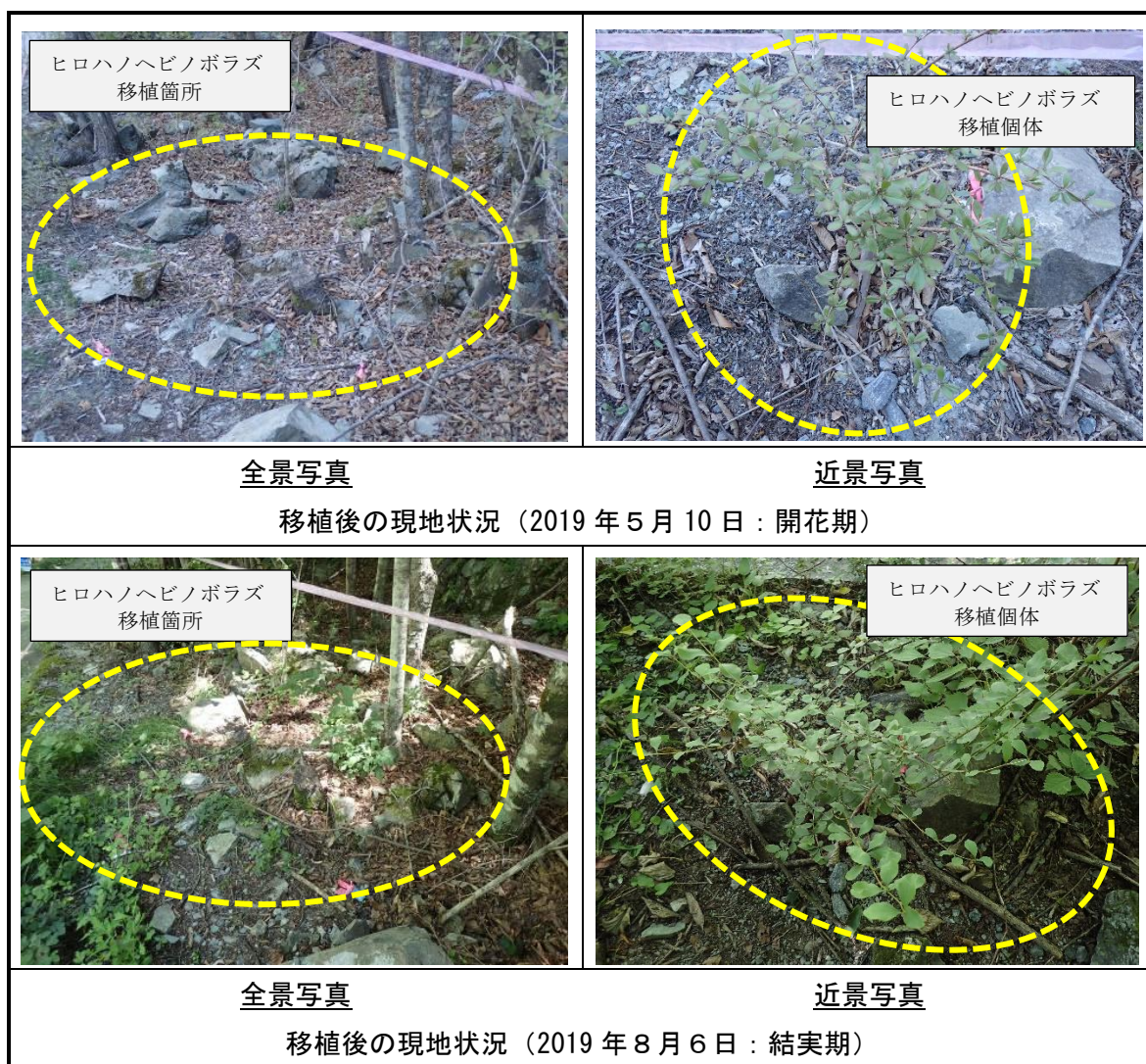


図 4-1(2) 生育状況調査結果（ヒロハノヘビノボラズ）



図 4-1 (3) 生育状況調査結果（ヒロハノヘビノボラズ）

4-1-2 ヤマシャクヤク

ヤマシャクヤクの生育状況調査の結果を図 4-2 に示す。

(2025 年移植個体、播種箇所)

地点①に 4 個体、地点②に 10 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 12 月 9 日、12 月 18 日）では、地点①、地点②において、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種箇所の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

(1) 2025 年移植个体（地点①）

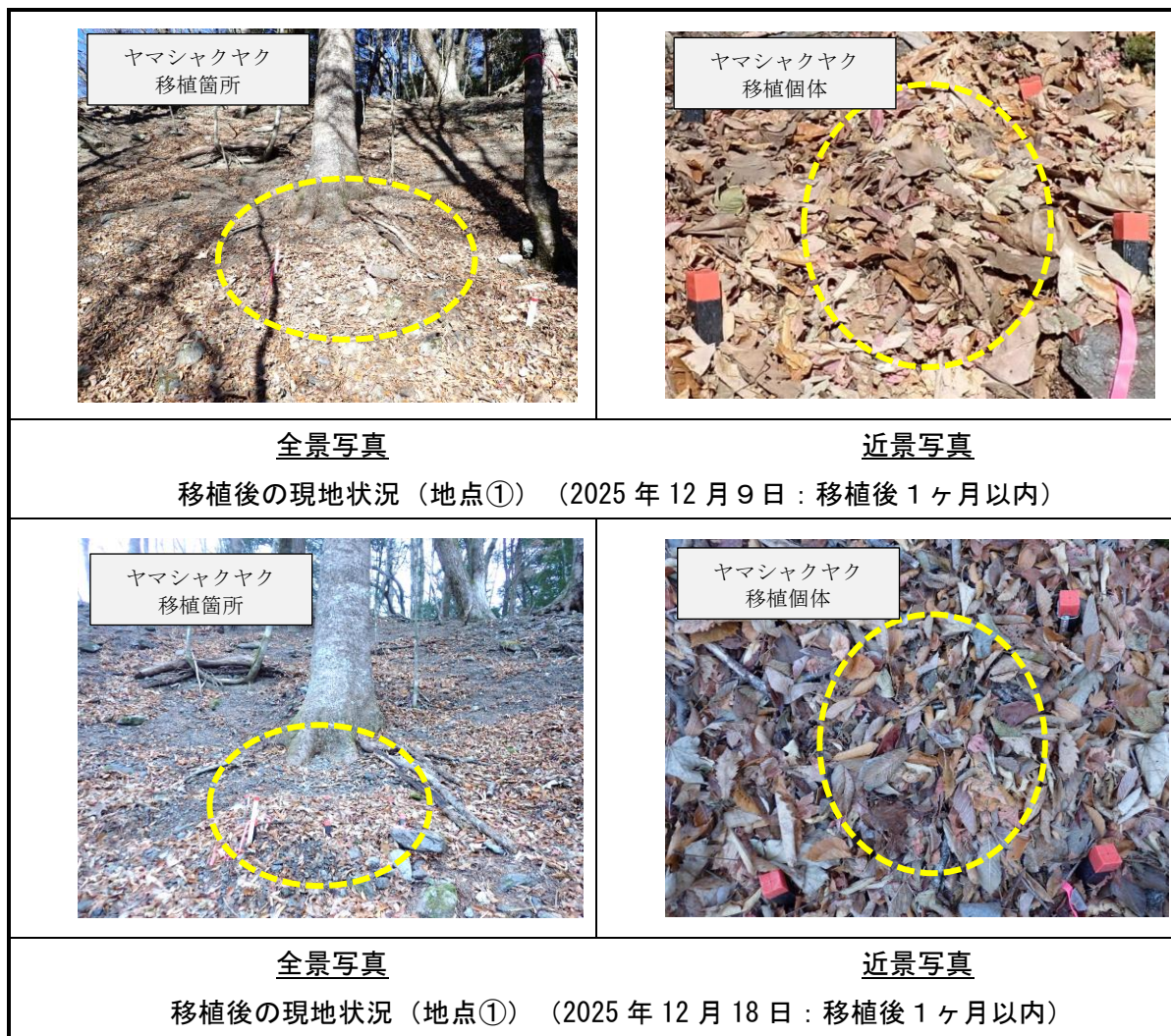


図 4-2(1) 生育状況調査結果（ヤマシャクヤク：地点①）

(2) 2025 年移植個体、播種箇所（地点②）

 ヤマシャクヤク 移植箇所	 ヤマシャクヤク 移植個体
全景写真 移植後の現地状況（地点②）（2025 年 12 月 9 日：移植後 1 ヶ月以内）	
 ヤマシャクヤク 移植箇所	 ヤマシャクヤク 移植個体
全景写真 移植後の現地状況（地点②）（2025 年 12 月 18 日：移植後 1 ヶ月以内）	
 ヤマシャクヤク 播種箇所	 ヤマシャクヤク 播種箇所
播種後の現地状況（地点②） （2025 年 12 月 9 日：播種後 1 ヶ月以内）	播種後の現地状況（地点②） （2025 年 12 月 18 日：播種後 1 ヶ月以内）

図 4-2(2) 生育状況調査結果（ヤマシャクヤク：地点②）

4-1-3 チョウセンナニワズ

チョウセンナニワズの生育状況調査の結果を図 4-3 に示す。

(2017 年移植个体)

2 个体、移植を実施した。

移植後 1 ヶ月以内の確認（2017 年 10 月 11 日、2017 年 10 月 30 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植地の環境変化や移植个体の変化も特に見られなかった。

移植後 1 年目の開花期の確認（2018 年 5 月 22 日）では、1 个体の生育を確認した。結実期の確認（2018 年 7 月 17 日）では、1 个体の花芽を確認したが、結実は確認されなかった。

移植後 2 年目の結実期の確認（2019 年 7 月 17 日）では、2 个体の花芽を確認したが、結実は確認されなかった。

移植後 3 年目の結実期の確認（2020 年 8 月 25 日）では、2 个体の花芽を確認したが、結実は確認されなかった。

移植後 3 年間の調査において、个体の生育が確認できたことから、専門家への確認、報告を踏まえて、調査は終了した。



図 4-3(1) 生育状況調査結果（チョウセンナニワズ）

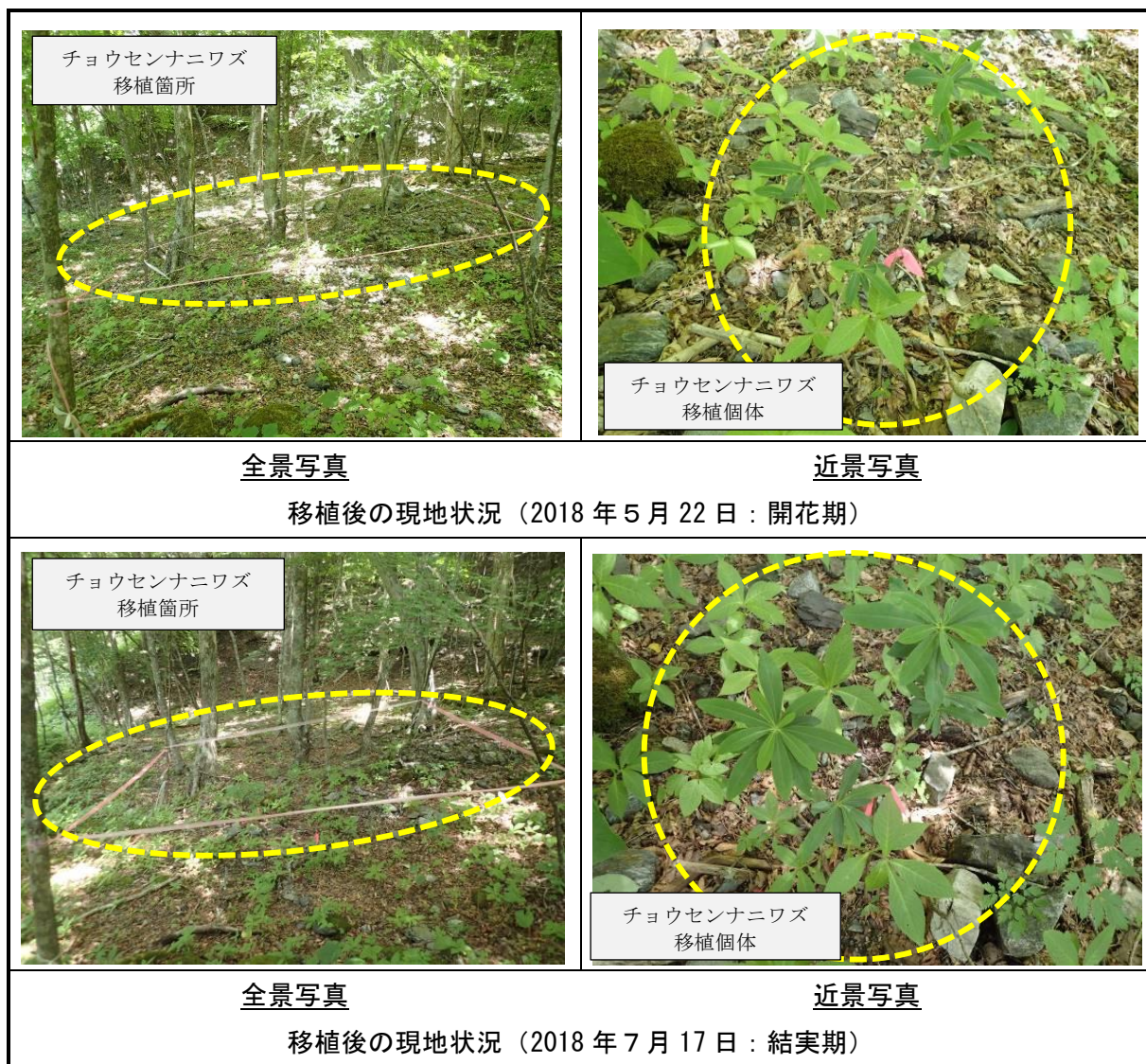


図 4-3(2) 生育状況調査結果（チョウセンナニワズ）

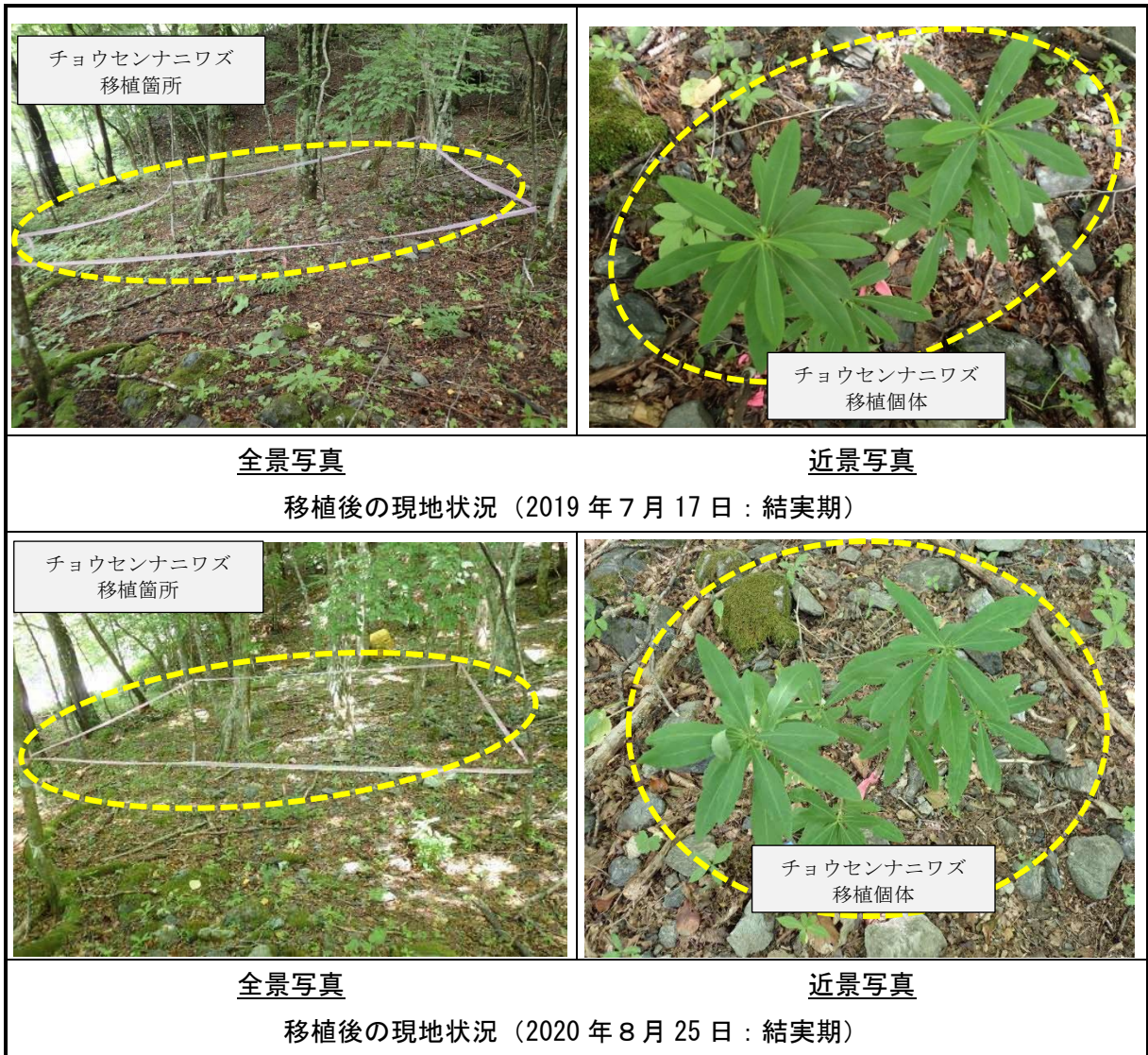


図 4-3(3) 生育状況調査結果（チョウセンナニワズ）

4-1-4 ミヤマスミレ

ミヤマスミレの生育状況調査の結果を図 4-4 に示す。

(2025 年移植個体、播種箇所)

30 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 12 月 9 日、12 月 18 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種箇所の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

	
<u>全景写真</u> <u>近景写真</u> 移植後の現地状況（2025 年 12 月 9 日：移植後 1 ヶ月以内）	
	
<u>全景写真</u> <u>近景写真</u> 移植後の現地状況（2025 年 12 月 18 日：移植後 1 ヶ月以内）	
	
播種後の現地状況 (2025 年 12 月 9 日：播種後 1 ヶ月以内)	播種後の現地状況 (2025 年 12 月 18 日：播種後 1 ヶ月以内)

図 4-4 生育状況調査結果（ミヤマスミレ）

4-1-5 ミヤマニガウリ

ミヤマニガウリの生育状況調査の結果を図 4-5 に示す。

(2025 年播種箇所)

播種について実施した。

播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 11 月 20 日、11 月 27 日、12 月 9 日、12 月 18 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、播種箇所の環境変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

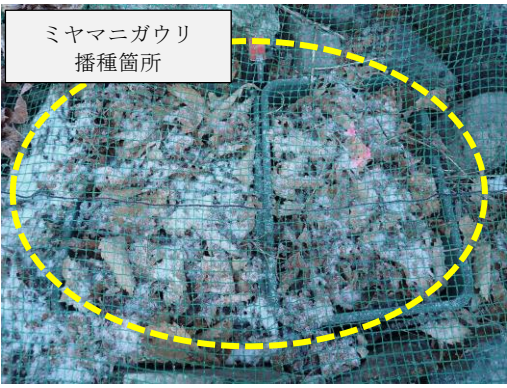
 ミヤマニガウリ 播種箇所	 ミヤマニガウリ 播種箇所
播種後の現地状況 (2025 年 11 月 20 日 : 播種後 1 ヶ月以内)	播種後の現地状況 (2025 年 11 月 27 日 : 播種後 1 ヶ月以内)
 ミヤマニガウリ 播種箇所	 ミヤマニガウリ 播種箇所
播種後の現地状況 (2025 年 12 月 9 日 : 播種後 1 ヶ月以内)	播種後の現地状況 (2025 年 12 月 18 日 : 播種後 1 ヶ月以内)

図 4-5 生育状況調査結果 (ミヤマニガウリ)

4-1-6 トダイアカバナ

トダイアカバナの生育状況調査の結果を図 4-6 に示す。

(2018 年移植個体、播種箇所)

1 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2018 年 11 月 13 日、2018 年 11 月 27 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種地の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

移植・播種後 1 年目の発芽期の確認（2019 年 6 月 11 日）では、1 個体の生育を確認した。開花期の確認（2019 年 9 月 25 日）では、1 個体の開花、結実を確認した。結実期の確認（2019 年 11 月 22 日）では、1 個体の生育を確認した。播種箇所においては、発芽は確認されなかった。

移植・播種後 2 年目の結実期の確認（2020 年 10 月 15 日）では、個体の生育は確認されなかった。播種箇所においては、発芽は確認されなかった。

移植・播種後 3 年目の結実期の確認（2021 年 10 月 15 日）では、個体の生育は確認されなかった。播種箇所においては、発芽は確認されなかった。

移植・播種後 3 年間の調査において、移植・播種後 2 年目、3 年目の調査では個体の生育は確認されなかった。しかしながら、本書の対象ヤードではないが、ツバクロ発生土置き場計画地から図 4-6 の付近へ移植した個体は、移植後 3 年間の調査において個体の生育を確認できたことから、専門家への確認、報告を踏まえて、調査は終了した。



図 4-6(1) 生育状況調査結果（トダイアカバナ）

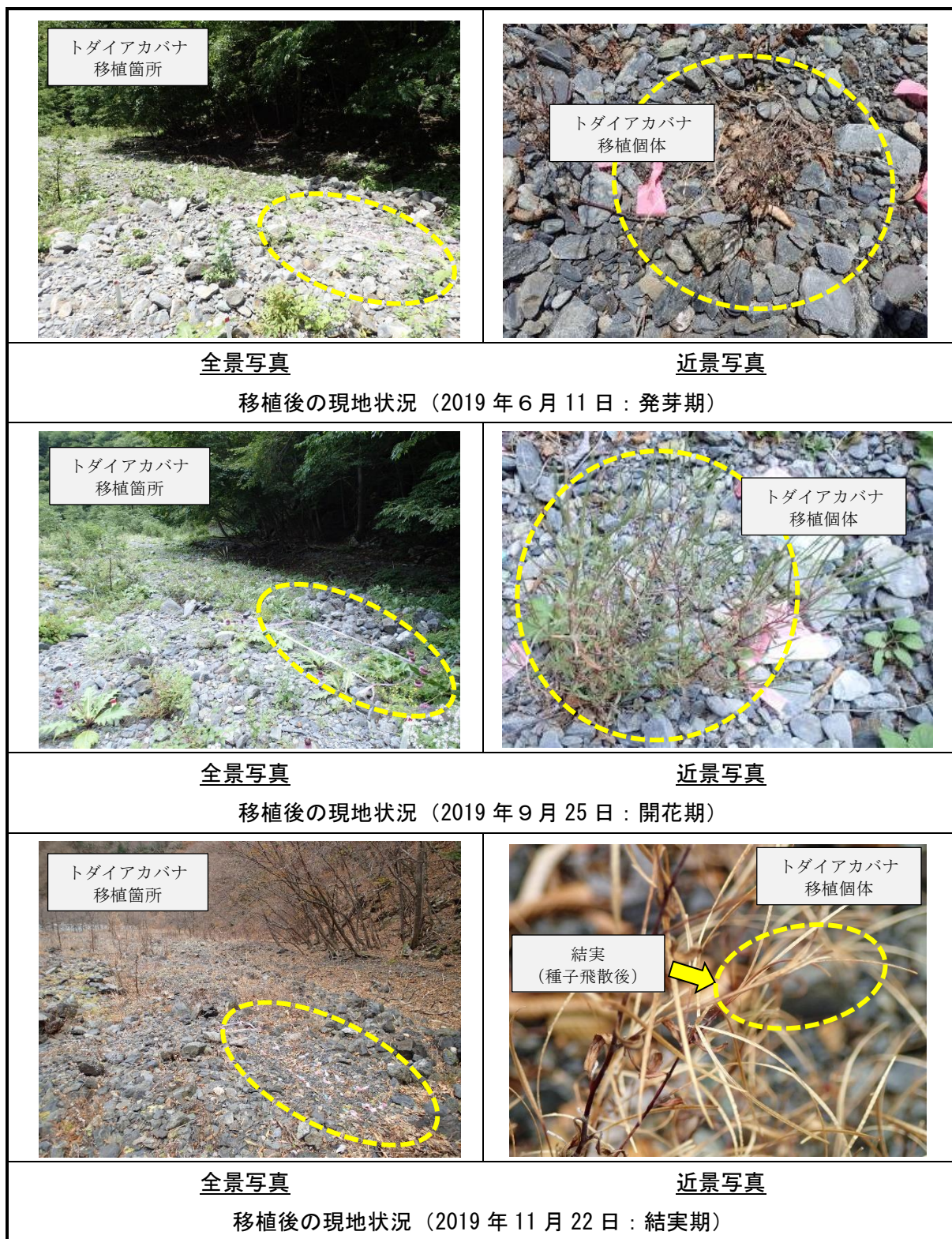


図 4-6(2) 生育状況調査結果（トダイアカバナ）



図 4-6 (3) 生育状況調査結果（トダイアカバナ）

	
播種後の現地状況 (2018 年 11 月 13 日 : 播種後 1 ヶ月以内)	播種後の現地状況 (2018 年 11 月 27 日 : 播種後 1 ヶ月以内)

図 4-6(4) 生育状況調査結果 (トダイアカバナ)

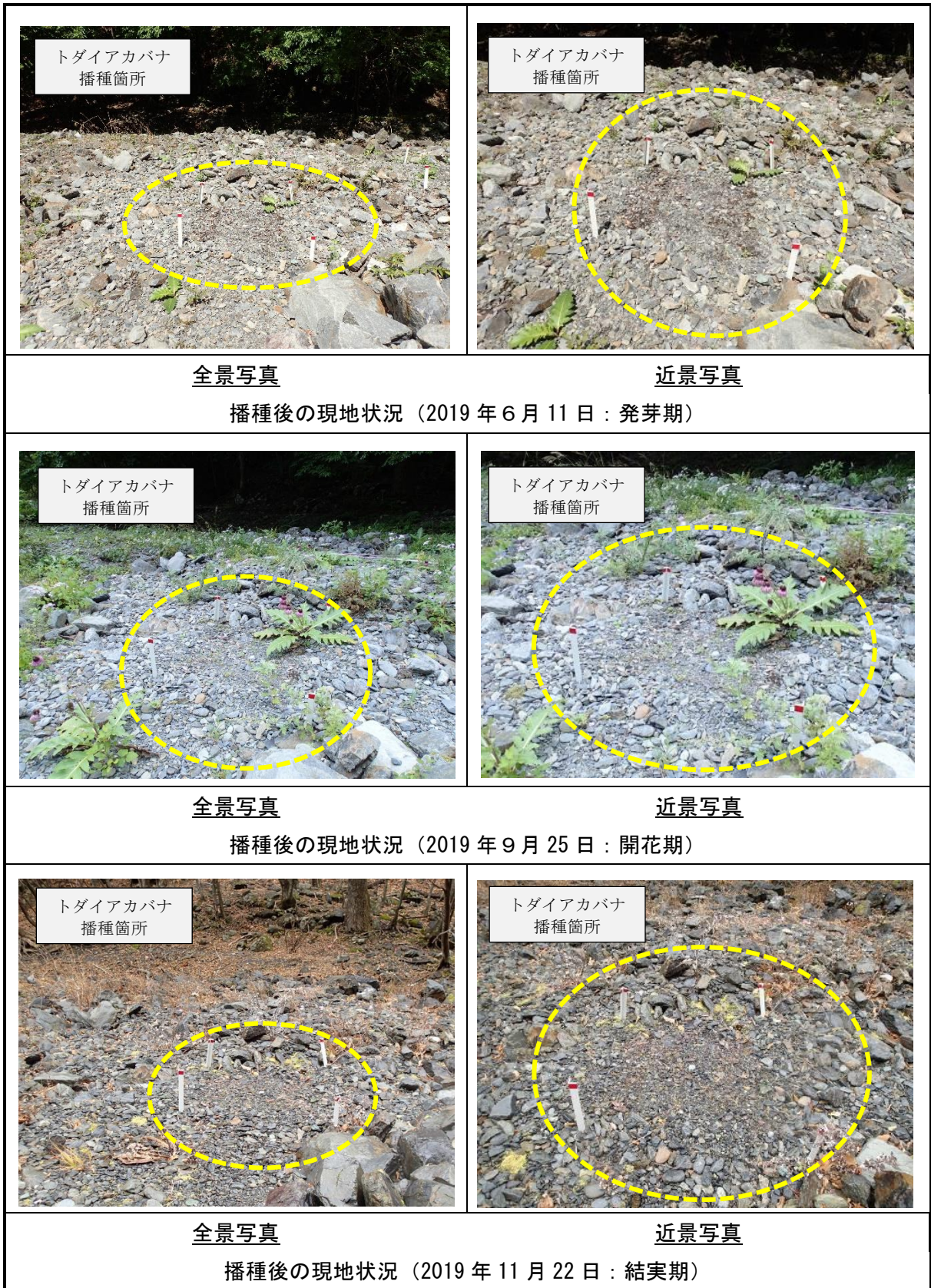


図 4-6 (5) 生育状況調査結果（トダイアカバナ）

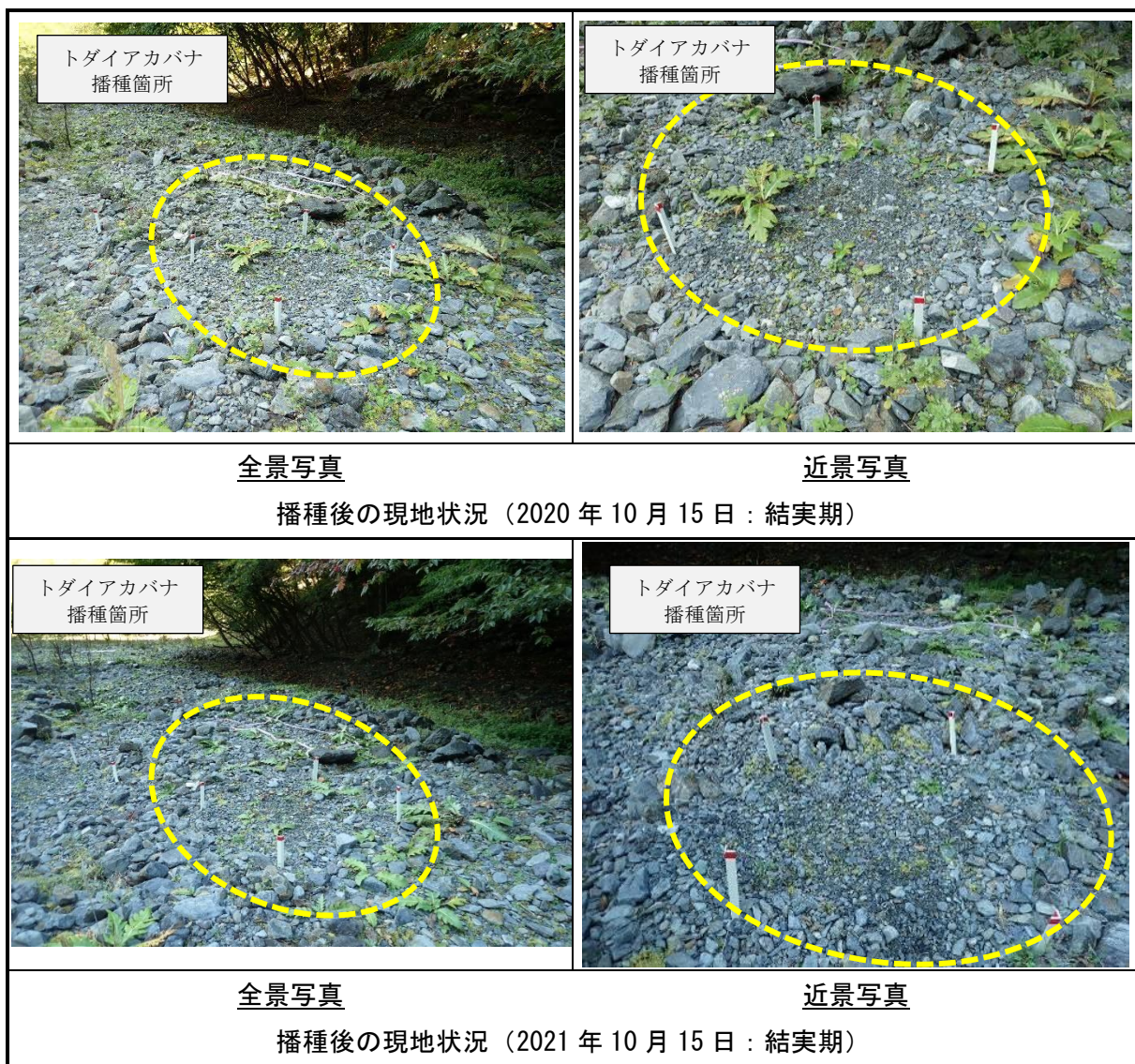


図 4-6(6) 生育状況調査結果（トダイアカバナ）

(2025 年移植個体、播種箇所)

15 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 11 月 20 日、11 月 26 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種地の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

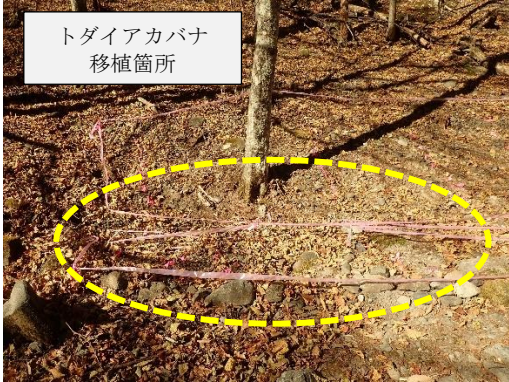
	
全景写真 移植後の現地状況 (2025 年 11 月 20 日 : 移植後 1 ヶ月以内)	
	
全景写真 移植後の現地状況 (2025 年 11 月 26 日 : 移植後 1 ヶ月以内)	
	
播種後の現地状況 (2025 年 11 月 20 日 : 播種後 1 ヶ月以内)	播種後の現地状況 (2025 年 11 月 26 日 : 播種後 1 ヶ月以内)

図 4-6(7) 生育状況調査結果 (トダイアカバナ)

4-1-7 タチキランソウ

タチキランソウの生育状況調査の結果を図 4-7 に示す。

(2025 年移植個体、播種箇所)

38 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 11 月 20 日、11 月 26 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種箇所の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。



全景写真

移植後の現地状況（2025 年 11 月 20 日：移植後 1 ヶ月以内）



全景写真

移植後の現地状況（2025 年 11 月 26 日：移植後 1 ヶ月以内）



播種後の現地状況

(2025 年 11 月 20 日：播種後 1 ヶ月以内)

図 4-7 生育状況調査結果（タチキランソウ）

4-1-8 ヒトツバテンナンショウ

ヒトツバテンナンショウの生育状況調査の結果を図 4-8 に示す。

(2017 年移植個体、播種箇所)

2 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2017 年 11 月 9 日、11 月 21 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種地の環境変化は特に見られなかった。また、移植個体の変化も特に見られなかった。

移植・播種後 1 年目の発芽期の確認（2018 年 5 月 10 日）では、2 個体の発芽及び開花が確認された。開花期の確認（2018 年 5 月 23 日）では、2 個体の開花を確認した。結実期の確認（2018 年 8 月 7 日）では、2 個体の生育を確認したが、結実は確認されなかった。播種箇所においては、開花期及び結実期に、本種を含むテンナンショウ属の芽生えを確認した。

移植・播種後 2 年目の結実期の確認（2019 年 8 月 6 日）では、2 個体の結実を確認した。播種箇所においては、本種が含まれるテンナンショウ属の一種の発芽を 17 個体確認した。

移植・播種後 3 年目の結実期の確認（2020 年 8 月 28 日）では、2 個体の生育を確認したが、結実は確認されなかった。播種箇所においては、本種が含まれるテンナンショウ属の一種の発芽を 27 個体確認した。

移植・播種後 3 年間の調査において、個体の生育が確認できたことから、専門家への確認、報告を踏まえて、調査は終了した。



図 4-8(1) 生育状況調査結果（ヒトツバテンナンショウ）

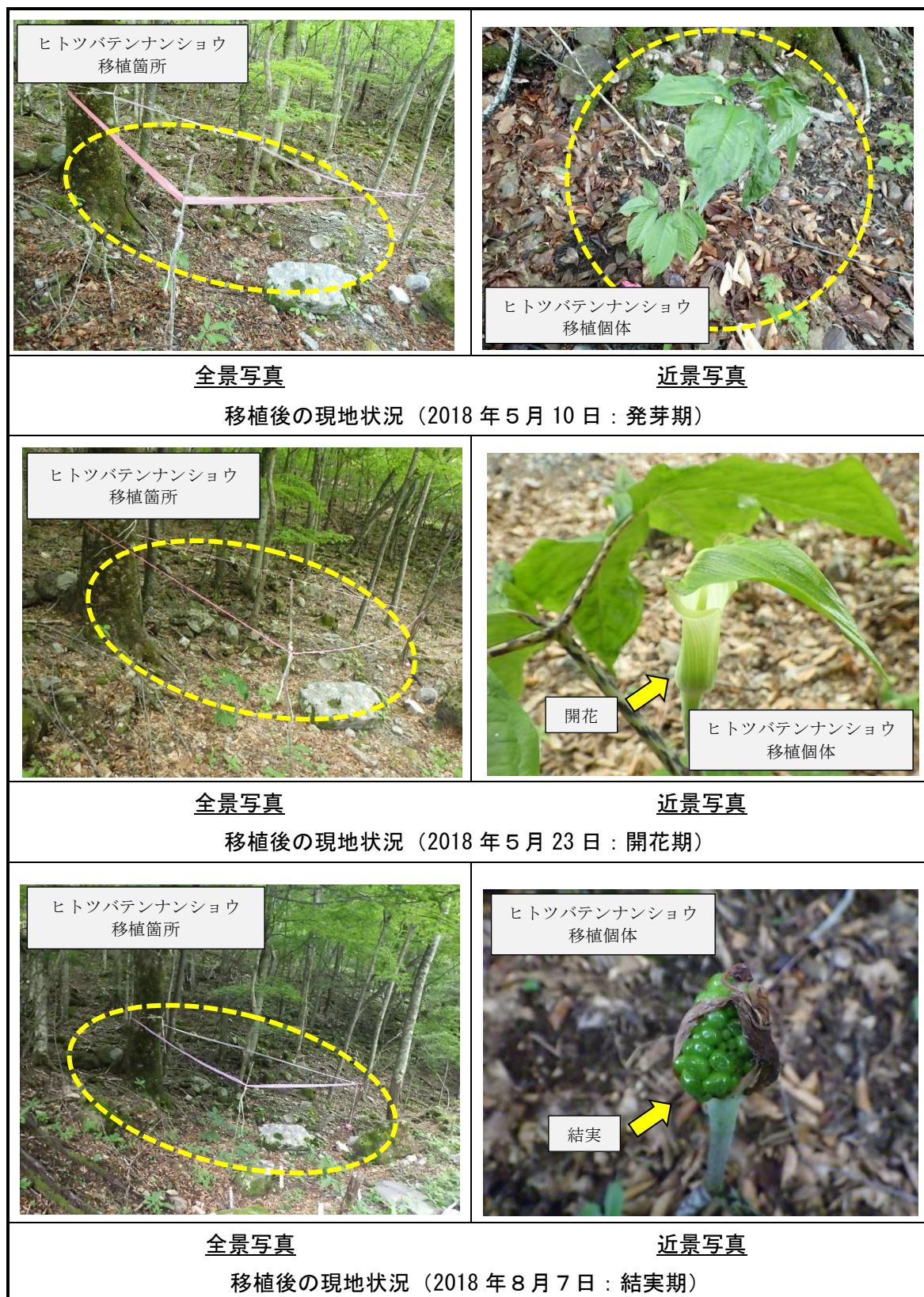


図 4-8(2) 生育状況調査結果（ヒトツバテンナンショウ）

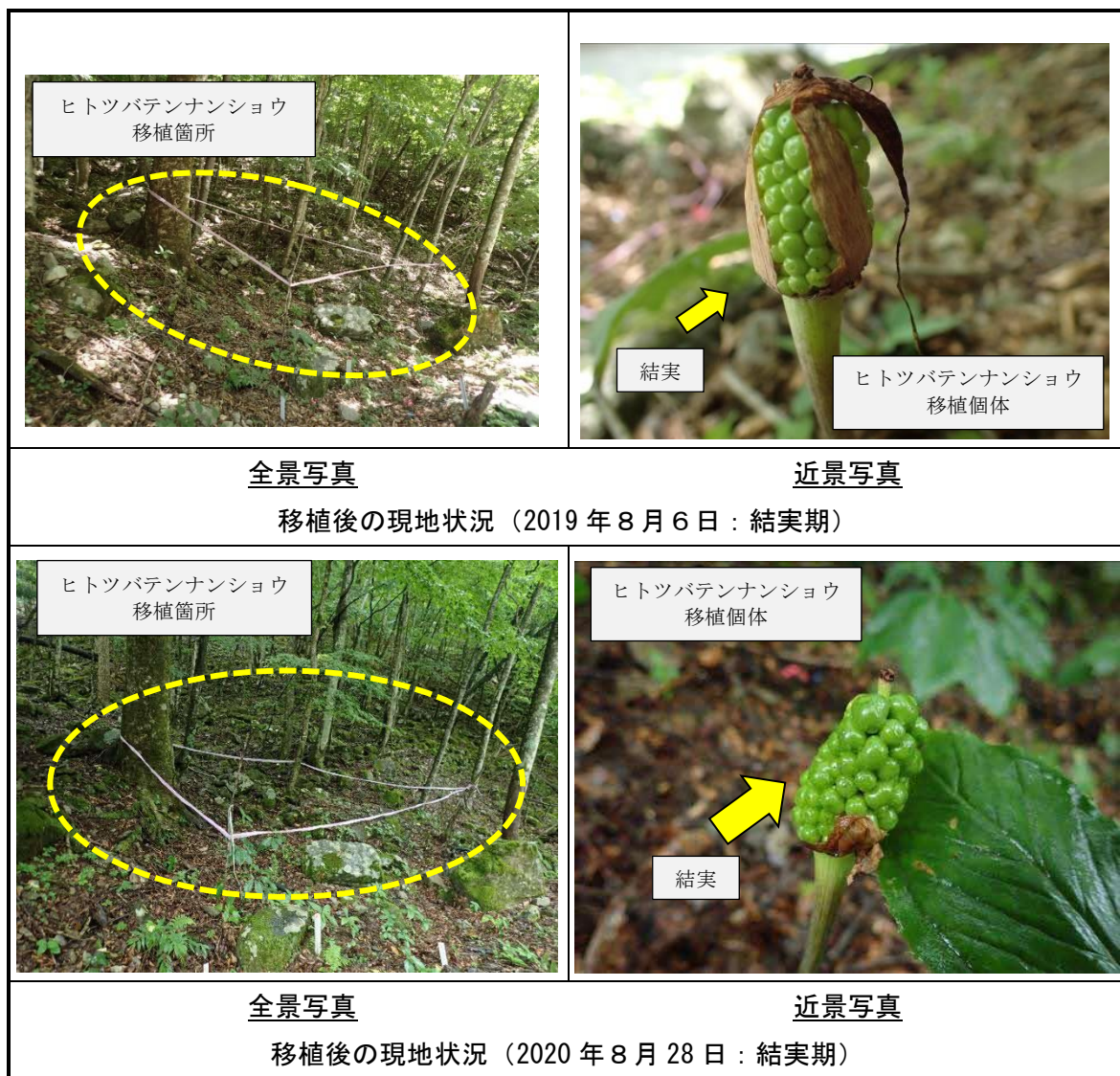


図 4-8(3) 生育状況調査結果（ヒトツバテンナンショウ）

 ヒトツバテンナンショウ 播種箇所	 ヒトツバテンナンショウ 播種箇所
播種後の現地状況 (2017 年 11 月 9 日 : 播種後 1 ヶ月以内)	播種後の現地状況 (2017 年 11 月 21 日 : 播種後 1 ヶ月以内)

図 4-8(4) 生育状況調査結果 (ヒトツバテンナンショウ)



図 4-8(5) 生育状況調査結果（ヒトツバテンナンショウ）



図 4-8(6) 生育状況調査結果（ヒトツバテンナンショウ）

(2025 年移植個体、播種箇所)

4 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 11 月 20 日、11 月 26 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種地の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

 ヒトツバテンナンショウ 移植箇所	 ヒトツバテンナンショウ 移植個体
<u>全景写真</u> <u>近景写真</u> 移植後の現地状況（2025 年 11 月 20 日：移植後 1 ヶ月以内）	
 ヒトツバテンナンショウ 移植箇所	 ヒトツバテンナンショウ 移植個体
<u>全景写真</u> <u>近景写真</u> 移植後の現地状況（2025 年 11 月 26 日：移植後 1 ヶ月以内）	
 ヒトツバテンナンショウ 播種箇所	 ヒトツバテンナンショウ 播種箇所
播種後の現地状況 （2025 年 11 月 20 日：播種後 1 ヶ月以内）	播種後の現地状況 （2025 年 11 月 26 日：播種後 1 ヶ月以内）

図 4-8 (7) 生育状況調査結果（ヒトツバテンナンショウ）

4-1-9 ギンラン

ギンランの生育状況調査の結果を図 4-9 に示す。

(2025 年移植個体、播種箇所)

12 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 12 月 9 日、12 月 18 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種箇所の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

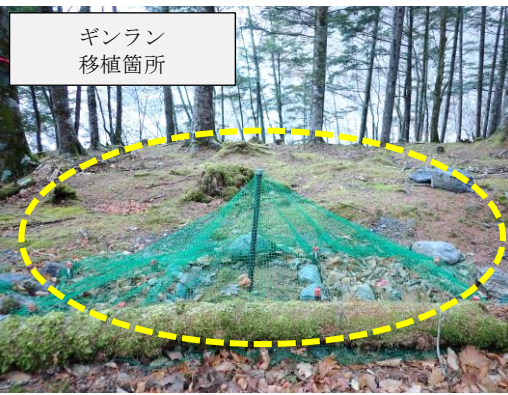
	
<u>全景写真</u> <u>近景写真</u> 移植後の現地状況（2025 年 12 月 9 日：移植後 1 ヶ月以内）	
	
<u>全景写真</u> <u>近景写真</u> 移植後の現地状況（2025 年 12 月 18 日：移植後 1 ヶ月以内）	
	
播種後の現地状況 （2025 年 12 月 9 日：播種後 1 ヶ月以内）	播種後の現地状況 （2025 年 12 月 18 日：播種後 1 ヶ月以内）

図 4-9 生育状況調査結果（ギンラン）

4-1-10 イチヨウラン

イチヨウランの生育状況調査の結果を図 4-10 に示す。

(2025 年移植個体、播種箇所)

1 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 11 月 21 日、11 月 27 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種箇所の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

	
<u>全景写真</u> 移植後の現地状況（2025 年 11 月 21 日：移植後 1 ヶ月以内）	
	
<u>全景写真</u> 移植後の現地状況（2025 年 11 月 27 日：移植後 1 ヶ月以内）	
	
播種後の現地状況 （2025 年 11 月 21 日：播種後 1 ヶ月以内）	播種後の現地状況 （2025 年 11 月 27 日：播種後 1 ヶ月以内）

図 4-10 生育状況調査結果（イチョウラン）

4-1-11 ホザキイチヨウラン

ホザキイチヨウランの生育状況調査の結果を図 4-11 に示す。

(2017 年移植個体、播種箇所)

地点①に 4 個体、地点②に 3 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2017 年 10 月 11 日、12 日、2017 年 10 月 27 日、28 日）では、地点①、地点②において、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種地の環境変化は特に見られなかった。

移植・播種後 1 年目の発芽期の確認（2018 年 5 月 22 日）では、地点①においては 4 個体、地点②においては 3 個体の発芽を確認した。開花期の確認（2018 年 7 月 17 日、18 日）では、地点①においては 4 個体の生育を確認し、そのうち 2 個体の開花を確認した。地点②においては 3 個体の生育を確認し、そのうち 2 個体の開花を確認した。結実期の確認（2018 年 9 月 19 日）では、地点①においては 4 個体の生育を確認したが、結実は確認されなかった。地点②においては 3 個体の生育を確認し、そのうち 1 個体の結実を確認した。播種箇所においては、発芽は確認されなかった。

移植・播種後 2 年目の結実期の確認（2019 年 9 月 4 日）では、地点①においては 6 個体の生育を確認したが、結実は確認されなかった。地点②においては 2 個体の生育を確認し、そのうち 1 個体の結実を確認した。播種箇所においては、発芽は確認されなかった。

移植・播種後 3 年目の結実期の確認（2020 年 9 月 11 日）では、地点①においては 1 個体の生育を確認したが、結実は確認されなかった。地点②においては、2 個体の生育を確認し、そのうち 1 個体の結実を確認した。播種箇所においては、発芽は確認されなかった。

移植・播種後 3 年間の調査において、個体の生育が確認できたことから、専門家への報告、確認のうえ、調査は終了した。

(1) 2017 年移植個體、播種箇所 (地点①)



図 4-11(1) 生育状況調査結果 (ホザキイチヨウラン：地点①)



図 4-11 (2) 生育状況調査結果（ホザキイチヨウラン：地点①）

ホザキイチヨウラン 播種箇所 	ホザキイチヨウラン 播種箇所 
播種後の現地状況（地点①） （2017 年 10 月 12 日：播種後 1 ヶ月以内）	播種後の現地状況（地点①） （2017 年 10 月 27 日：播種後 1 ヶ月以内）
ホザキイチヨウラン 播種箇所 	ホザキイチヨウラン 播種箇所 
播種後の現地状況（地点①） （2018 年 5 月 22 日：発芽期）	播種後の現地状況（地点①） （2018 年 7 月 18 日：開花期）
ホザキイチヨウラン 播種箇所 	ホザキイチヨウラン 播種箇所 
播種後の現地状況（地点①） （2018 年 9 月 19 日：結実期）	播種後の現地状況（地点①） （2019 年 9 月 4 日：結実期）

図 4-11 (4) 生育状況調査結果（ホザキイチヨウラン：地点①）

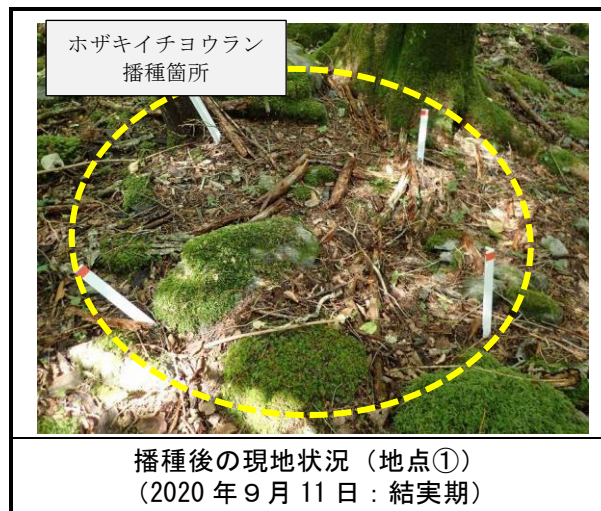


図 4-11 (5) 生育状況調査結果（ホザキイチヨウラン：地点①）

(2) 2017 年移植個體、播種箇所（地点②）



図 4-11 (6) 生育状況調査結果 (ホザキイチヨウラン：地点②)

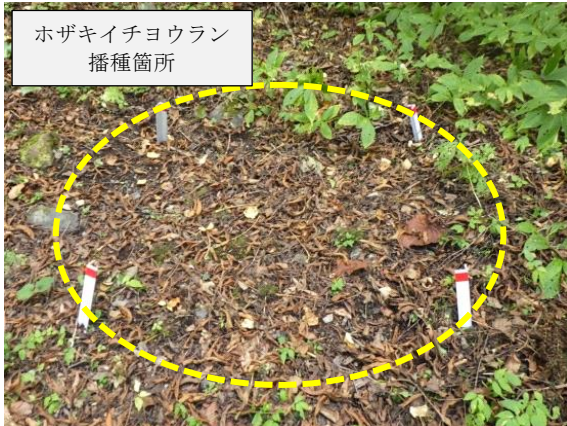
 ホザキイチヨウラン 播種箇所	 ホザキイチヨウラン 播種箇所
播種後の現地状況（地点②） （2017 年 10 月 11 日：播種後 1 ヶ月以内）	播種後の現地状況（地点②） （2017 年 10 月 28 日：播種後 1 ヶ月以内）
 ホザキイチヨウラン 播種箇所	 ホザキイチヨウラン 播種箇所
播種後の現地状況（地点②） （2018 年 5 月 22 日：発芽期）	播種後の現地状況（地点②） （2018 年 7 月 17 日：開花期）
 ホザキイチヨウラン 播種箇所	 ホザキイチヨウラン 播種箇所
播種後の現地状況（地点②） （2018 年 9 月 19 日：結実期）	播種後の現地状況（地点②） （2019 年 9 月 4 日：結実期）

図 4-11 (9) 生育状況調査結果（ホザキイチヨウラン：地点②）



図 4-11(10) 生育状況調査結果（ホザキイチヨウラン：地点②）

(2025 年移植個体、播種箇所)

地点①に 4 個体、地点②に 1 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 11 月 21 日、11 月 27 日、2025 年 12 月 9 日、12 月 18 日）では、地点①、地点②において、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種地の環境変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

<u>全景写真</u> <u>移植個体写真</u> 移植後の現地状況（地点①）（2025 年 11 月 21 日：移植後 1 ヶ月以内）	
<u>全景写真</u> <u>移植個体写真</u> 移植後の現地状況（地点①）（2025 年 11 月 27 日：移植後 1 ヶ月以内）	
播種後の現地状況（地点①） （2025 年 11 月 21 日：播種後 1 ヶ月以内）	播種後の現地状況（地点①） （2025 年 11 月 27 日：播種後 1 ヶ月以内）

4-1-52

ホザキイチヨウラン 移植箇所	ホザキイチヨウラン 移植個体
<u>全景写真</u> <u>移植個体写真</u> 移植後の現地状況（地点②）（2025 年 12 月 9 日：移植後 1 ヶ月以内）	
ホザキイチヨウラン 移植箇所	ホザキイチヨウラン 移植個体
<u>全景写真</u> <u>移植個体写真</u> 移植後の現地状況（地点②）（2025 年 12 月 18 日：移植後 1 ヶ月以内）	
ホザキイチヨウラン 播種箇所	ホザキイチヨウラン 播種箇所
<u>播種後の現地状況（地点②）</u> （2025 年 12 月 9 日：播種後 1 ヶ月以内）	<u>播種後の現地状況（地点②）</u> （2025 年 12 月 18 日：播種後 1 ヶ月以内）

4-1-53

4-1-12 クロクモキリソウ

クロクモキリソウの生育状況調査の結果を図 4-12 に示す。

(2018 年移植個体、播種箇所)

24 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2018 年 11 月 13 日、11 月 27 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種箇所の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

移植・播種後 1 年目の発芽期の確認（2019 年 5 月 9 日）においては、17 個体の発芽を確認した。開花期の確認（2019 年 7 月 17 日）においては、23 個体の生育を確認し、そのうち 7 個体の開花を確認した。結実期の確認（2019 年 11 月 22 日）においては、13 個体の生育を確認し、そのうち 1 個体の結実を確認した。播種箇所においては、発芽は確認されなかった。

移植・播種後 2 年目の結実期の確認（2020 年 10 月 15 日）においては、14 個体の生育を確認したが、結実は確認されなかった。播種箇所においては、個体の生育は確認されなかった。

移植・播種後 3 年目の結実期の確認（2021 年 10 月 13 日）においては、13 個体の生育を確認したが、結実は確認されなかった。播種箇所においては、個体の生育は確認されなかった。

移植・播種後 3 年間の調査において、個体の生育が確認できたことから、専門家への報告、確認のうえ、調査は終了した。



図 4-12(1) 生育状況調査結果（クロクモギリソウ）

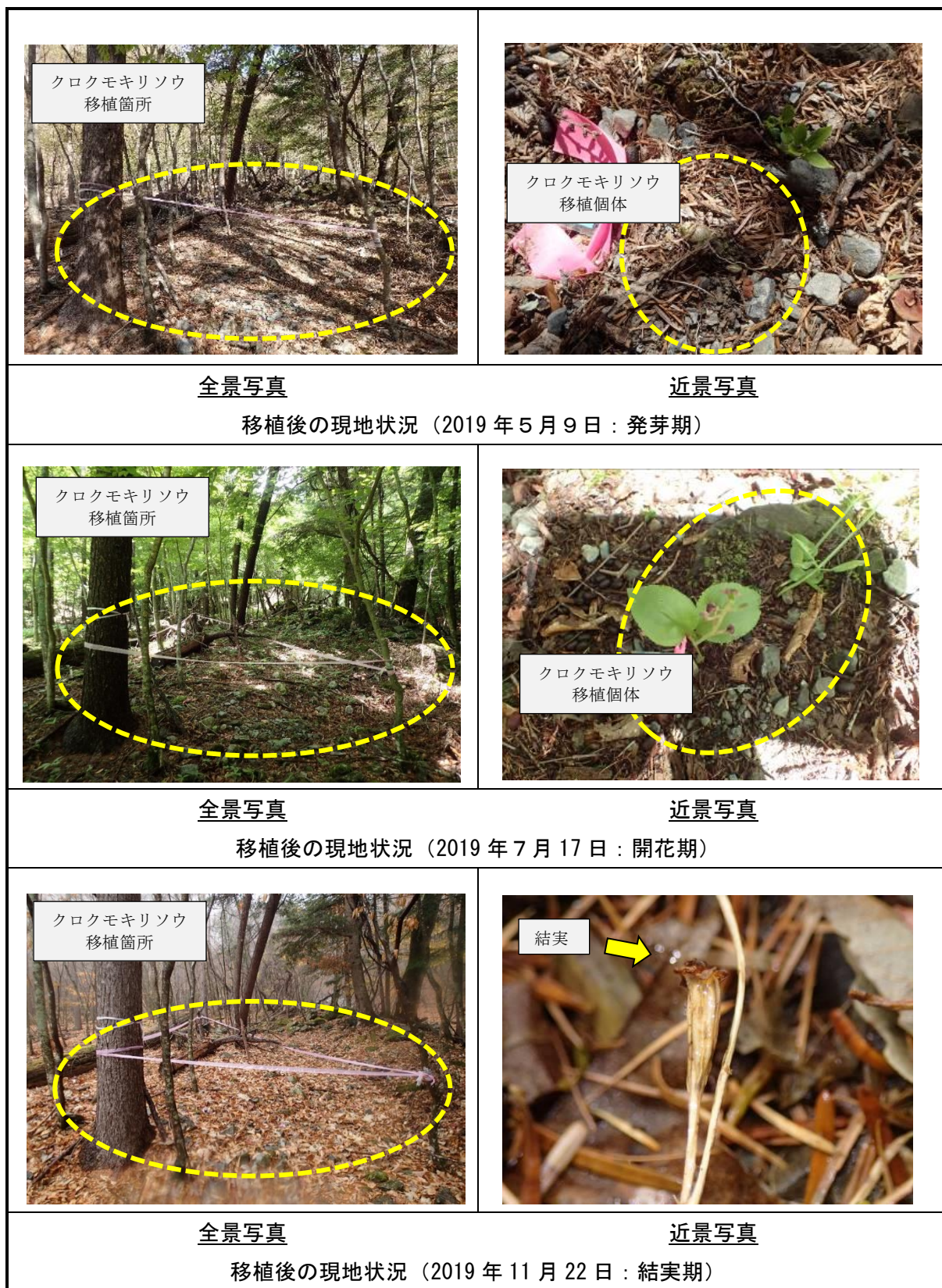


図 4-12(2) 生育状況調査結果（クロクモキリソウ）

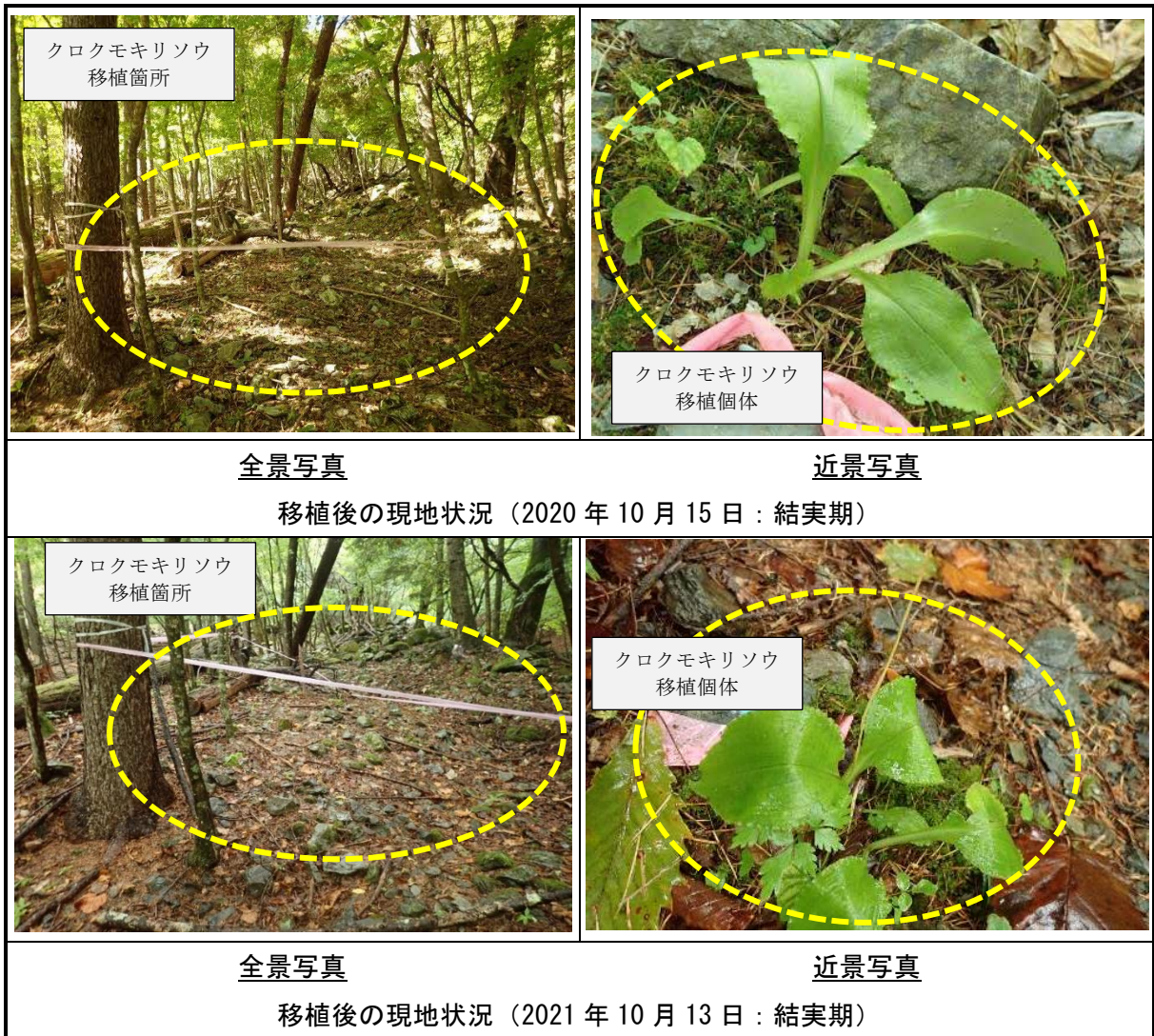


図 4-12(3) 生育状況調査結果（クロクモキリソウ）

 クロクモキリソウ 播種箇所	 クロクモキリソウ 播種箇所
播種後の現地状況 (2018年11月13日：播種後 1 ヶ月以内)	播種後の現地状況 (2018年11月27日：播種後 1 ヶ月以内))
 クロクモキリソウ 播種箇所	 クロクモキリソウ 播種箇所
播種後の現地状況 (2019年 5 月 9 日：発芽期)	播種後の現地状況 (2019年 7 月 17 日：開花期)
 クロクモキリソウ 播種箇所	
播種後の現地状況 (2019 年 11 月 22 日：結実期)	

図 4-12(4) 生育状況調査結果 (クロクモキリソウ)

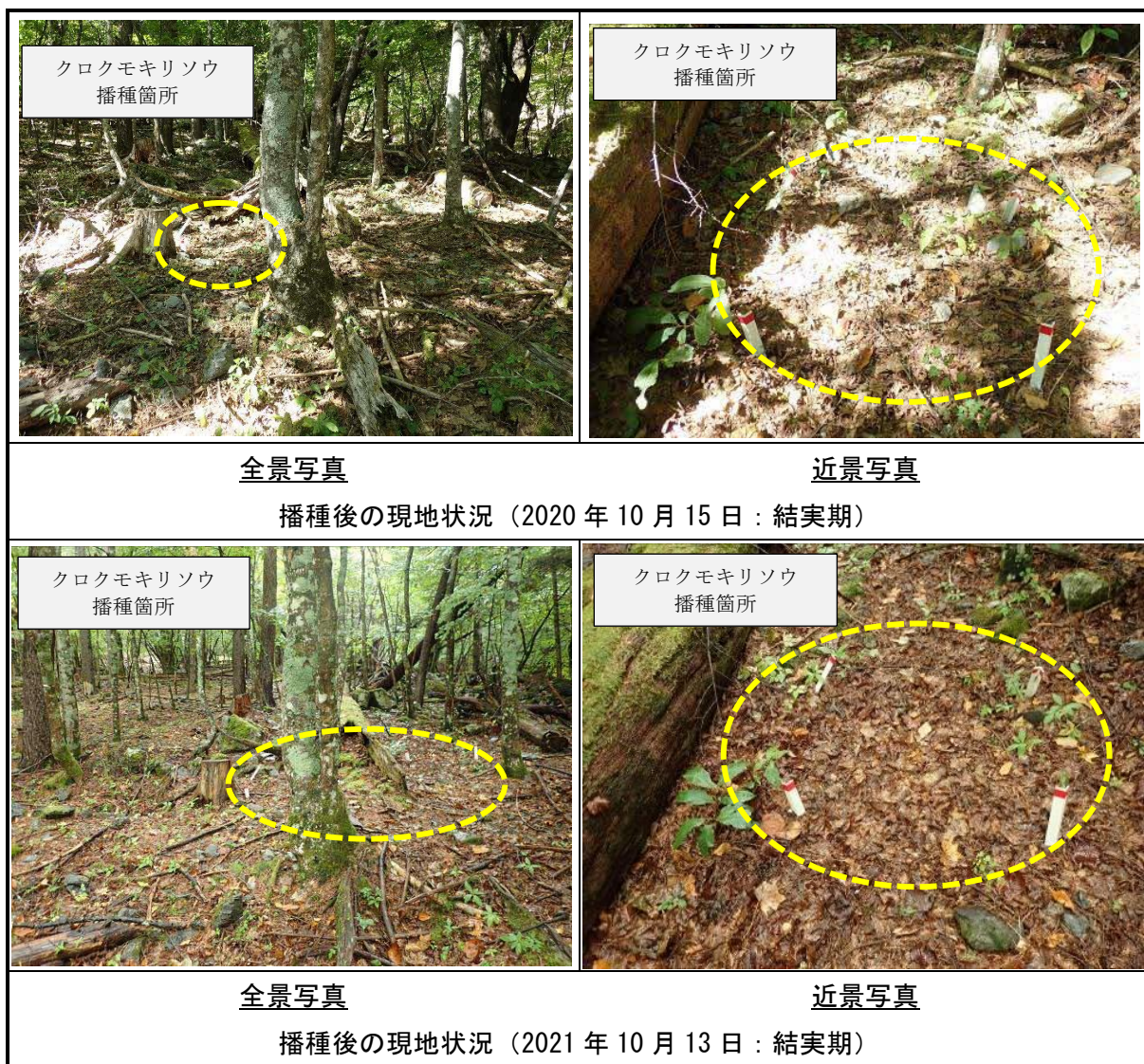


図 4-12(5) 生育状況調査結果（クロクモキリソウ）

(2025 年移植個体、播種箇所)

地点①に 6 個体、地点②には 17 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 12 月 9 日、12 月 18 日）では、地点①、地点②において、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種箇所の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

(1) 2025 年移植個體、播種箇所 (地点①)

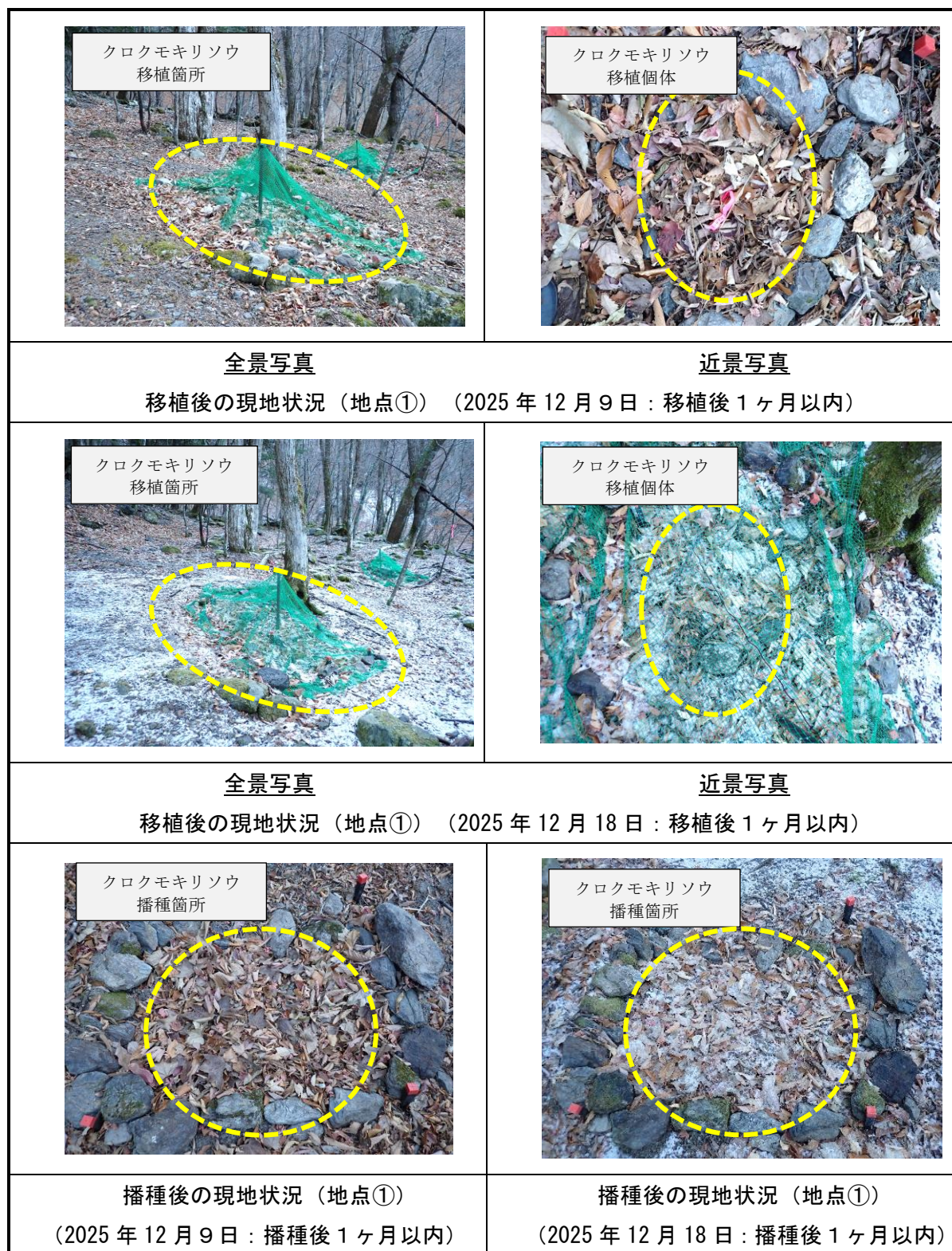


図 4-12(6) 生育状況調査結果（クロクモキリソウ：地点①）

(2) 2025 年移植个体 (地点②)



図 4-12(2) 生育状況調査結果 (クロクモキリソウ：地点②)

第5章 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが明らかになった場合 の対応の方針

今回実施した事後調査は、準備工事に係る工事着手前の移植・播種を実施した植物の生育状況に関する調査であり、調査の結果、移植・播種地の環境変化や移植個体の大きな変化は確認されなかった。

なお今後、事後調査の結果、環境影響の程度が著しいと判明した場合は、その原因の究明に努めるとともに、専門家等の助言を踏まえ、必要な場合には種の特性に応じた対策について検討・実施し、改善を図ることを考えている。

第6章 業務の委託先

環境調査等に係る一部の業務は、表 6-1に示す者に委託して実施した。

表 6-1 環境調査等に係る一部の業務の委託先

名 称	代表者の氏名	主たる事務所の所在地
国際航業株式会社	代表取締役社長 藤原 協	東京都新宿区 北新宿二丁目21番1号
日本工営株式会社	代表取締役社長 福岡 知久	東京都千代田区 麴町五丁目4番地

・ 2026年 2 月 1 日時点の情報

参考：その他の調査の結果

準備工事に関して、事後調査のほか、排水に係る工事中の環境管理を適切に行うため、工事着手前の公共用水域（河川）の水質の状況について調査を実施した。なお、水質に係る環境保全措置の内容等については、「静岡県内中央新幹線建設工事に伴う準備工事における環境保全について（2026年2月）」の「3-4-1 水環境（水質）」に記載している。

(1) 水質

1) 調査項目

調査項目は、浮遊物質量（SS）、水素イオン濃度（pH）の状況とした。なお、水質の調査の際、流量、水温、気象の状況及び水底の土質の状況もあわせて確認を行った。

2) 調査方法

調査の方法を表 参-1 に示す。

表 参-1 水質の調査方法

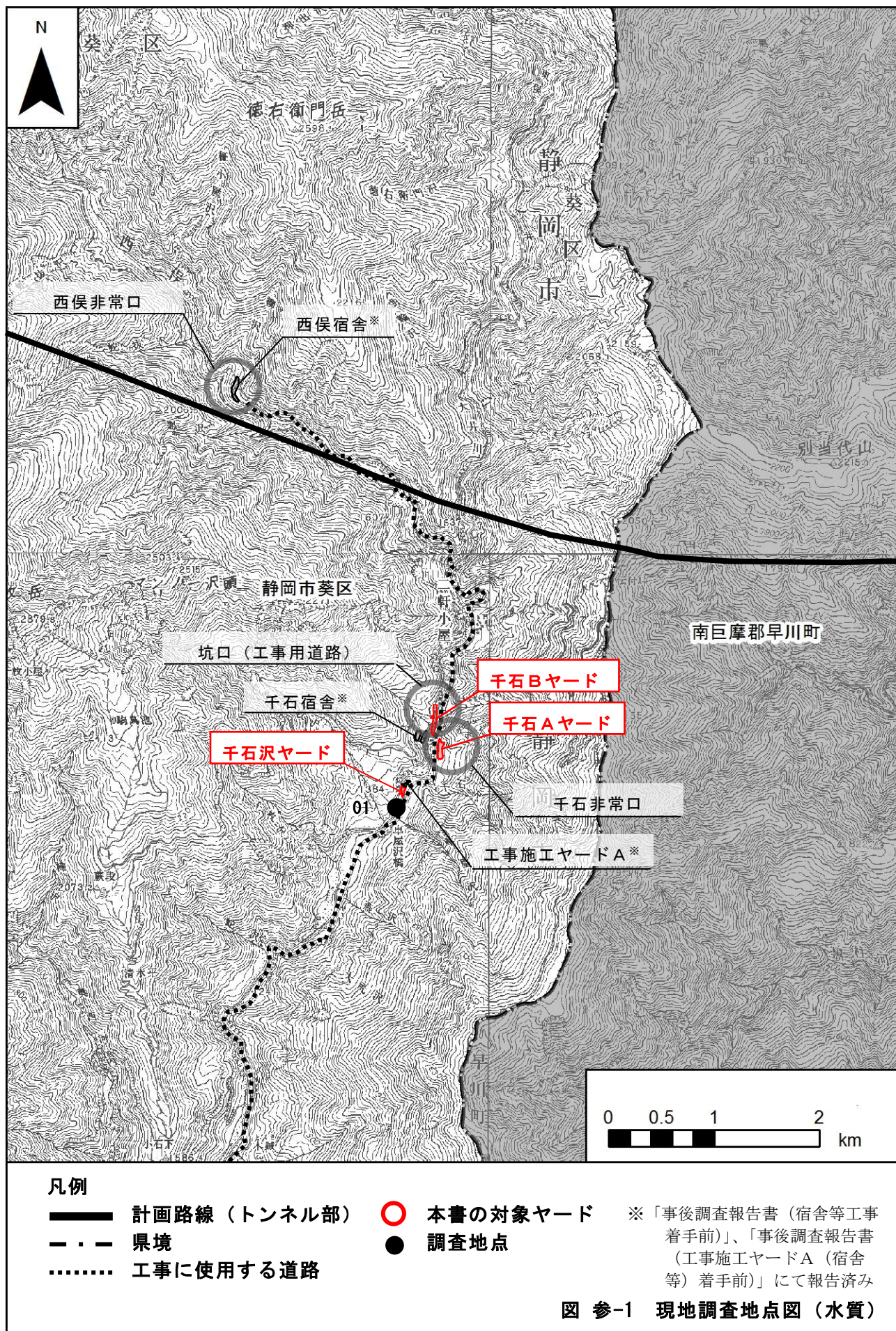
調査項目	調査方法
浮遊物質量（SS）	「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月 環境庁告示第59号）に定める測定方法に準拠する。
水素イオン濃度（pH）	

3) 調査地点

現地調査地点は、事後調査計画書に示す地点とした。現地調査地点を表 参-2及び図参-1に示す。

表 参-2 水質の現地調査地点

地点番号	市町村名	水系	対象河川	調査地点
01	静岡市葵区	大井川	大井川	千石沢ヤード下流



4) 調査期間

現地調査の期間を表 参-3 に示す。

表 参-3 水質の現地調査期間

地点番号	調査期間
01	2020年 5 月 29 日

5) 調査結果

調査の結果を表 参-4 に示す。すべての地点において、環境基準等を下回っていた。

表 参-4 水質の現地調査結果

地点 番号	調査項目	調査期間	環境基準（AA型）※
		2020年 5 月 29 日	
01	水素イオン濃度 (pH)	7.8	6.5以上8.5以下
	浮遊物質 量 (SS) (mg/L)	1.0	25mg/L以下
	流量 (m ³ /min)	445.2	—
	水温 (℃)	7.2	—
	気象の状況	晴	—
	水底の土質の状況	小石～玉石	—

※ 「水質汚濁に係る環境基準」（環境庁告示第59号、昭和46年12月）の「生活環境の保全に関する環境基準」より

本書で利用した地図は、注記があるものを除き、国土地理院発行の数値地図200000（地図画像）、数値地図50000（地図画像）及び数値地図25000（地図画像）を加工して作成した。

本書は、再生紙を使用している。